

決ヲ經タルモ其ノ後三月三十一日現在ニテ精算ノ結果金五千三百五圓六十一錢ヲ増加シ金二十四萬二千三百五圓六十一圓ノ剩餘ヲ見ルコトトナリタリ而シテ右増加金五千三百五圓六十一錢ハ追テ歳出第一欸第一項第二目配水線路費ニ追加ノ計畫ニ有之候間御合ミノ上併セテ御許可相成度此段申添候

添付書類

- 一、起債ニ依ル事業費殘額使用理由書
- 一、昭和十一年度甲府市上水道擴張費歳入歳出豫算及内譯書
- 一、水道給水區域擴張及給水設備工事執行ニ關スル市會議決書
- 一、甲府市水道區域ニ編入方同意ニ關スル關係村議決書
- 一、上水道擴張費、特別會計ヲ昭和十一年度迄延長スルノ市會議決書
- 一、計畫説明書
- 一、自昭和八年度甲府市上水道擴張繼續費收支計算表
- 一、自昭和十年度甲府市上水道擴張繼續費收支計算表
- 一、自昭和十一年度水道經濟財政計畫及説明書
- 一、水道經濟公債調
- 一、起債許可指令書及附屬通牒
- 一、昭和十一年度甲府市水道費歳入歳出豫算書
- 一、自昭和八年度甲府市上水道擴張工事實施設計書圖面

起債ニ依ル事業費殘額使用ニ關スル理由書

一、起債ニ依ル事業費殘額金二四二、三〇五圓六一錢ヲ生ジタル理由

昭和八年六月内務省梨衛第二六號ヲ以テ御認可相成候上水道擴張工事ハ執行時期ニ於ケル物價及勞銀ガ設計當時ヨリ概略二割乃至三割ノ低落ヲ見タルコト及執行ニ當リ極度ノ節約ヲ加ヘタル結果ニ依ル

一、同上ノ使用ヲ要スル理由

昭和十一年度豫算ニ計上シタル配水管敷設其他諸設備ハ自昭和八年度擴張計畫ニ編入セラレザリシモノニシテ今回同計畫ノ竣工ト共ニ緊急施設ヲ要スルモノナリ

水道事務所新築ニ付キテハ軌近發展途上ニアル本市ハ市廳舎甚敷狹隘ヲ告ゲ居ル結果水道事務室モ著シク其ノ影響ヲ蒙リ其ノ不便言ハム方ナク殊ニ水道經營ハ平常ニ於テモ鐵管其他機械器具等比較的多量ノ豫備材料ヲ必要トスルモ全く其ノ藏置場ナク不得止一部ノ事務員ト共ニ他ニ借地シ假家ニ依リ一時ヲ彌縫シ居ル狀態ニテ事務能率上尠カラザル支障ヲ來シ居リ從ツテ之ガ新築ハ焦眉ノ急ヲ要スルモノナリ

以上ノ施設ハ總テ市將來ヲ裨益スルトコロ尠カラザルモノニ有之而シテ他ニ之ニ充當スル適當ノ財源無之ニ付右殘額金使用ヲ申請スル所以ナリ

壹萬圓以上ノ殘額ヲ生ジタル費目ト其ノ理由

第一欸上水道擴張工事費

一、目導水線路費

本目ヨリ支出豫定ノ鐵管費五千四拾圓ヲ經理上ノ都合ニヨリ淨水場費ヨリ支出シタルコト及工事用材料勞銀ノ低落ノ結果ニ依ル

二、目送水線路費

縣市道其他道路復舊費ニ於テ約壹萬五千圓不用額トナリタルコト及鐵管購入費ニ於テ約五萬圓ノ廉價購入ヲ得タルト共ニ

第三章 變更計畫

第二編 上水道擴張

其他材料勞銀等ノ低落ノ結果ニ依ル

四目建築費

擴張事務所ヲ壹萬圓ヲ以テ建築スル豫定ナリシモ之ヲ見合セタルニ依ル
六目機械器具費

トラツク壹臺(豫算高三、五〇〇圓)ノ購入ヲ見合セタルコト並ニ軌條貳哩分及水壓試驗器新規購入豫定(豫算高一〇、七〇〇圓)ナリシヲ東京市不用品中ヨリ右拂下ゲテ得テ(拂下價格二、五八五圓)前者ト合セ壹萬壹千餘圓ノ節約ヲ爲シタルガ主ナルモノナリ

十一目事務費

殘務ヲ終ラザル結果ニ依ル

十二目雜費

竣功式費及水道史編纂費未濟ナルニ依ル

第二款公債費

起價御許可附帶通牒ニ基キ繰下借入ヲナシタルコト及利率ガ豫定ヨリ低率ナリシ結果ニ依ル

自昭和十一年度 至同十六年度 甲府市水道經濟財政計畫及說明

科	年次	歳入					
		昭和十一年度	昭和十二年度	昭和十三年度	昭和十四年度	昭和十五年度	昭和十六年度
一、使用料及手数料		一八三、八四	二〇五、七四六	二二〇、三六三	二二四、七四七	二二九、三九一	二三三、七九六
二、縣補助金		一〇〇	—	—	—	—	—
三、寄附金		—	—	—	—	—	—
四、繰越金		—	—	—	—	—	—
五、一般經濟積戻金		—	—	—	—	—	—
六、雜收入		—	—	—	—	—	—
歳入合計		一八三、八四	二〇五、七四六	二二〇、三六三	二二四、七四七	二二九、三九一	二三三、七九六

給水使用量ハ人口ト給水量増加ニ伴ヒ漸次増加ノ豫定ニシテ工事設計請求ニ

依ル手数料モ之ニ比例シ増加ノ豫定ナリ

縣補助金ハ造林及防火線補助ヲ受クル豫定ナリ

繰越金ハ昭和十一年度歳入出引殘額トナルベキ分十一年度歳入出引殘額トシテ繰越金ハ水道經濟ヨリ一般經濟ヘ運用シタル總額十一萬七千圓ノ償還元金ヨリ償還年次ニ依リ收入ノ豫定ナリ

雑收入ハ主トシテ歳出ニ給水工事ノ支出金ヲ回收スル收入ニシテ其他ハ金庫保管金利息及過年度收入等ナリ昭和十一年度ニ於テ比較的多額ナルハ昭和十一年度歳出七雜支出縣費立替金ノ戻入ヲ見込ミタルモノナリ

役所費及作業費ハ擴張工事竣工ノ結果漸次從事員傭人及器具機械等ノ設備其他事務處理費ノ増加ヲ要スル見込ナリ

第三章 變更計畫

科	年次	歳出、經常部					
		昭和十一年度	昭和十二年度	昭和十三年度	昭和十四年度	昭和十五年度	昭和十六年度
一、役所費		三〇、五五九	三二、一八四	三三、五三四	三三、六〇〇	三三、七九五	三三、七九〇
二、作業費		三三、三五七	三五、八四六	二七、二八五	二七、七〇〇	二七、四四五	二七、五四〇
歳入合計		三七、三四四	二六、一〇二	二五、〇三四	二六、八六三	三〇、四九九	三六、六三六

說明

第二編 上水道擴張

三、給水工費	二、三三三	一六、九四九	一五、四七〇	一五、三八五	一五、三九五	一五、四七〇	給水設備請求ニ應ズル費用ニシテ其ノ支出額ハ全部歳入雑収入ニ回收スルモノナリ
四、財産費	六三	六三	六三	六三	六三	六三	財産費、諸税及負擔、公金取扱費、雑支出、豫備費ハ前年度ノ例ヲ執レモ踏襲セリ
五、諸税及負擔	五	五	五	五	五	五	
六、公金取扱費	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	
七、雜支	九六六	九六六	九六六	九六六	九六六	九六六	
八、豫備費	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	
經常部計	八〇、八七三	七八、三三三	七八、六四四	七八、七〇九	七八、八七九	七八、一三四	
同臨時部							
一、作業費	一九、九三九	一八、四〇〇	二二、四九一	二七、〇一五	二五、八八二	二四、七六四	作業費ハ給水戸數ノ增加率ニ伴ヒ水量器取付及配水管ノ増設改設費用ナリ
内 機械器具費	一一、四五〇	一七、四〇〇	二〇、四九一	二〇、九三一	一六、八二〇	一六、〇九四	
内 配水管費	四、六六六	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一〇、〇八四	九、〇六一	八、六七〇	
譯 濾過層復舊費	二、八七三						
二、臨時給水費	二、四八九						臨時給水費ハ送水能力ヲ補フ動力其他關係費用ナルモ擴張工事完成ト共ニ必要ナキニ至レルニ依ル
三、公債費	六、四九四	一三、八八九	一三、八八九	一三、八八九	一三、八八九	一三、八八九	別紙水道經濟公債調書ノ通り
内 一般水道費	二、三九五	二、三九五	二、三九五	二、三九五	二、三九五	二、三九五	
内 公債擴張費	六、一〇九	一一、四九四	一一、四九四	一一、四九四	一一、四九四	一一、四九四	
四、勸業費	一、〇四五	一、〇四五	一、〇四五	一、〇四五	一、〇四五	一、〇四五	
五、負擔金	八、〇六九	三五、六六六					
荒川沿岸用水幹線改良事業費溜池設置並ニ附屬工事費負擔金	八、〇六九	三五、六六六					
六、寄附金	五、九三三	三、五六六					
水道擴張ニ伴フ國縣道改修費縣指定寄附金	八、八〇七	三、五六六					
荒川沿岸用水幹線改良事業費設置並ニ附屬工事費關係村	四七、一一六						
七、雜支	四六、八四二	一、〇八三	一、〇八三	一、〇八三	一、〇八三	一、〇八三	雑支出中三萬圓ハ一般經濟ヘ運用繰入モノナリ
内 一般經濟	三、〇八三	一、〇八三	一、〇八三	一、〇八三	一、〇八三	一、〇八三	
内 縣立	一五、七五九						
譯 立	二七、七九一	一八三、六九九	一四七、九六六	一五三、〇四〇	一五一、九七七	一五〇、七九八	
臨時部計	三五、八六四	二六二、〇一三	三六、五九〇	二三一、七四九	二三〇、九六六	二二九、九三三	
歲出合計							

給水區域編入ノ件御願

貴廳水道擴張區域トシテ本村大字古府中字小山田鷹師町相ノ原山越、廣小路、納戸町、宮前、清水、大熊、堅道、正永、増山、御崎、天神川、塔岩、ヲ給水區域編入ノ義特別ノ御詮議相成度此段奉願候也

第二編 上水道擴張

昭和十一年二月十七日

五八六

西山梨郡相川村長 山村夏吉

甲府市長 齋木逸造殿

(同郡大宮村、千塚村、里垣村、中巨摩郡貢川村國母村分執モ省略)

庶發第一〇四號

昭和十一年四月二日

相川村長 山村夏吉

甲府市長殿

水道給水區域編入ニ關スル件

臨水發第一〇號ヲ以テ御照會ニ係ル首標ノ件別紙議騰本參通御送附申候間宜敷御取計相成度及依頼候也
議第二五號

甲府市水道給水區域ニ編入方同意ノ件

一、本村大字古府中ヲ甲府市水道給水區域ニ編入ノ件同意ス

一、前項給水區域編入ノ結果村道ニ配水管ヲ敷設スル場合ハ之ヲ無料占用セシムルモノトス

昭和十二年三月三十一日議決

相川村長 山村夏吉

右騰本ナリ

西山梨郡相川村長 山村夏吉

仍て水道事務所及市外地配水管敷設に關しては、更めて市會に諮つた上實施すべく其の準備を執り進む一方、既に市會より諒解済である、水質試験室、混藥室の設置、水神社、元市長故加藤平四郎氏胸像、水道記念碑建立の各工事に昭和十一年五月一日より着工し、其の完成を急ぎ同十二年三月三十一日竣工した。
又前記二件の實施方法に關し昭和十一年十一月二十四日市會協議會を開き、其の具體的方法を諮つた結果、配水管敷設工事は原案中荒川以西の分を見合せて、専ら荒川以東に於ける市外相川村古府中外三ヶ所と、市内朝氣町、南大路、西一、二條通り、元柳町、飯田町等へ八千四百米敷設すべく金六萬四百六十四圓を決定し、水道事務所建築問題は繼續と爲し審議する事となつた。

然して市外地給水施設工事を着手の爲準備を執進めたが鐵管類は亦又昂騰時に直面して居たので、直ちに購買手配にかゝり、同十二月二十八日水道委員會の承認を求めて、内徑百耗乃至二百耗直管二百四十七噸及異形管類十一噸餘を、金二萬九千六百六十八圓を以て日本鑄鐵管合資會社と取急いで購入契約を締結し、續いて消火栓、減水弁、排水用土管、敷設用材料其の他を購入準備を執り進めると共に、施行個所内の縣道村道占用承認方及水路敷設用許可方其の他の諸手續を縣知事及關係公署に申請する所あつた。

仍て工事は夫々準備の進捗に伴れ着工すべく購買鐵管の到着を待つた所、二月十日より納入を見るに至つたので、市内富士見町鐵管試験所に於て水壓管體の各試験を行ひ敷設すべき現場に夫々搬出し之と前後して施工に伴ふ諸手續は夫々承認されるを得たので、同十二年三月二十日より西山梨郡大宮村字湯組村地内の配水管敷設より着工し、續いて同郡千塚村鹽部、同郡里垣村善光寺、同郡同村東光寺、市内朝氣町西一、二條通り、同飯田町、同元紺屋町、西山梨郡相川村御納戸小路と順次施工して同十二年十月末竣工を見るに至り目下殘業の整理を進めて居る(前記郡村は大

宮、千塚を除き同年八月一日より本市に合併するに至れり

配水鐵管敷設費

一、金六萬四百六拾四圓也

工事概要	種目形狀	單位	數量	單價	金額	摘要
一、鐵管敷設工	內徑一〇〇耗	內徑	一〇〇耗	延長五千二百十二米		市町村道
一、同	同上	同上	一五〇耗	同二千七百二十九米		市町村道
一、同	同上	同上	二〇〇耗	同四百五十九米		市町村道
一、消火栓新設工	同上	同上	二〇〇耗	同		市町村道
一、制水弁据付工	同上	同上	一〇〇耗	同		市町村道
一、同	同上	同上	一五〇耗	同		市町村道
一、同	同上	同上	二〇〇耗	同		市町村道
一、排氣弁据付工	同上	同上	二〇〇耗	同		市町村道
鐵管敷設費	內徑一〇〇耗	米	五、三〇〇	四、三四一	二、三〇〇・七〇	市町村道
同上	同上	同上	七、九〇	五、六九	三、九三・八七一	市町村道
同上	同上	同上	二、八〇〇	五、八五六	一、七〇〇・四〇〇	市町村道
同上	同上	同上	一、五九〇	七、四四一	一、一八三・二一九	市町村道

同	異形管	上	〃	二〇〇耗	〃	二、一六・八六三	縣	道
同	制水管	上	〃	二五〇	二、一〇〇・〇〇〇	三、一六・八〇〇		
同	同上	上	〃	一五〇耗	〃	一、一四〇・〇〇〇		
同	同上	上	〃	五〇	六、九六〇	三、四八・〇〇〇		
同	消火栓	單口	〃	一〇	七、二〇〇	九、六・九〇〇		
同	量水器	內徑一五耗	〃	一〇	三、〇〇〇	三、四五六・〇〇〇		
減壓弁	〃	〃	〃	一〇	六、八〇〇	六、八〇・〇〇〇		
水管橋架設	〃	〃	〃	一八〇	一、五〇〇	二、七〇・〇〇〇		
同	同上	〃	〃	一八〇	二、〇〇〇	二、九〇・〇〇〇		
同	同上	〃	〃	一八〇	二、〇〇〇	二、九〇・〇〇〇		
排氣弁	單式	個	〃	五〇	四、五〇〇	二、二五・〇〇〇		
水路伏越防護	筒所	〃	〃	二二〇	二、五〇〇	三、〇〇・〇〇〇		
消火栓移設	〃	〃	〃	九〇	五、〇〇〇	四、五〇・〇〇〇		
雜工費	一式	〃	〃	〃	〃	一、七三・一〇四		
備人費	〃	〃	〃	〃	〃	三、九六・七三三		
雜費	〃	〃	〃	〃	〃	六、七二・四一一		
合計	〃	〃	〃	〃	〃	六〇、四六四・〇〇〇		

直管及異形管調書

種別	延長(米)	單位(一米=)	重量(噸)	本數	摘	要
內徑一〇〇耗	五,二二〇	〇.〇二五	一三三.八二	一,七九〇	長	三米
〃一五〇耗	二,七九二	〇.〇三三	一〇七.七〇	七三〇	〃	四米
〃二〇〇耗	四,五九〇	〇.〇五八	三三.八四四	一一一〇	〃	四米
異形管	八,四〇〇		二六四.四一六	二,六〇四	直管ノ約六%ヲ見込ム	
合計			一五.八三四			
合計			二〇.二五〇			

區域別配水管及附帶工作物調書

番號	區域	鐵管 100耗	鐵管 150耗	鐵管 200耗	制水弁	消火栓	減壓水器	摘	要
一	朝氣町	九七八.〇		一,九一〇	一〇〇—四	七	七	水路伏越	四ヶ所
二	西南大路通り	八六〇			一〇〇—五	四	四	水路伏越	一三ヶ所
三	飯田町		九三六.〇		一五〇—二	六	六	水路伏越	一三ヶ所
四	大宮湯村大字	五六六.〇	三四九.〇		一〇〇—二	五	減量	水路伏越	四ヶ所

番號	區域	鐵管 100耗	鐵管 150耗	鐵管 200耗	制水弁	消火栓	減壓水器	摘	要
五	千塚村大字	七四一.〇	二二〇.〇		一〇〇—五	八	八	水路伏越	二一ヶ所
六	元柳町及相川村ノ一部	七九七.〇	三六九.〇		一〇〇—六	五	五	水路伏越	一四ヶ所
七	里垣村	一,三四〇.〇	八三七.〇		一〇〇—三	三	三	水路伏越	一ヶ所
計		五,二二〇	二,七九〇	四,五九〇	二〇〇—五	四八	減量	水路伏越	一一ヶ所
		(內縣道 二,一八〇.〇)	(內縣道 二,六一〇.〇)						

區域別豫算額内譯

番號	敷設區域	豫算額	摘	要
一	市内朝氣町	七,三四四.〇〇〇	市内分	
二	同 南大路町及西二條通り	四,七七五.〇〇〇	延長 一九,八二三圓〇〇〇	
三	同 飯田町	七,七〇四.〇〇〇	延長 二,八九八米	
四	大宮村大字湯村	七,二七六.〇〇〇	市内分	
五	千塚村大字鹽部	九,五七五.〇〇〇	四〇,六四一圓〇〇〇	
六	元柳町及相川村ノ一部	八,二六三.〇〇〇	延長 五,七四二米	
七	里垣村大字板垣及坂折	一五,五二七.〇〇〇		
計		六〇,四六四.〇〇〇		

又水道事務所建築に關しては同十二年一月十二日の再開せる市會は、既に現廳舎は極度の狹隘を告げて居るを以て、之の際水道事務所建築のみに限局せず又は姑息的増築等にこだわらず、市政將來の發展を克く考慮して他に適當なる地點があるならば物色して移轉改築すべきであると爲し、其の實行方法に迄、亘つた意見もでたが、何れ委員會を設け調査を進むべく左の如き十三名に附託する旨を決定した。

議長秋山幸右衛門、副議長雪江明雄、百瀬幾彌、廣瀬捨作、矢崎六郎、飯島浩、中込常祐、深澤正敏、三井知造、小泉義親、寺田七男、小林重太郎、篠原良雄、

斯てその委員會は同月十四日より開會し移轉改築の根本方針に基き調査を開始し、爾來數次の審議を重ねた結果、市内錦町地内舊縣廳舎跡を有力なる地點と定め、土地所有者に賣買方交渉を進めた所、其の諒解を得るに至つたので之を敷地に内定し、一方現廳舎の處分方法も議せられたが之は後日に譲り更に構案を爲す事となり、まづ豫算執行に關係があるので二月七日の市會協議會に前記地點を廳舎敷地と爲すべき旨を報告し、續いて同八日正式に左の如き議決を経て其の手續を了した。仍て廳舎改築は同十二年度からの繼續事業として水道事務所の建築より着手するを得、目下建築工事中である。

不動産取得ノ件

市役所敷地ニ充ツル爲左記ノ土地ヲ買入ルルモノトス

昭和十二年二月九日提出

甲府市長 齋 木 逸 造

昭和十二年二月九日原案可決

所有者

東京市麻布區永坂町六十番地

穴水合名會社

町名	地番	地目	地積	賃貸價格	町名	地番	地目	地積	賃貸價格
錦町	一ノ一	宅地	六九・五六	二九二・一五	錦町	一ノ一六	宅地	一四九・一七	三五八・〇〇
同	一ノ八	同	二九・五六	二九二・一五	同	一ノ一七	同	九三・四八	二三四・三五
同	一ノ九	同	一四三・六四	五二七・一〇	同	一ノ一八	同	一四五・六〇	三四九・四四
同	一ノ一〇	同	一四三・六四	五二七・一〇	同	一ノ一九	同	一四四・四七	三四六・七二
同	一ノ二	同	八八・五五	三七一・九一	同	一ノ二〇	同	五〇・四〇	一三〇・九六
同	一ノ三	同	一四九・三四	六二七・三三	同	一ノ二一	同	四九・四〇	一一八・五六
同	一ノ四	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ二二	同	四八・四〇	一一六・一六
同	一ノ五	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ二三	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ六	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ二四	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ七	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ二五	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ八	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ二六	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ九	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ二七	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ一〇	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ二八	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ一一	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ二九	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ一二	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ三〇	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ一三	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ三一	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ一四	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ三二	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ一五	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ三三	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ一六	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ三四	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ一七	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ三五	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ一八	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ三六	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ一九	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ三七	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ二〇	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ三八	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ二一	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ三九	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ二二	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ四〇	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ二三	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ四一	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ二四	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ四二	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ二五	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ四三	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ二六	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ四四	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ二七	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ四五	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ二八	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ四六	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ二九	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ四七	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ三〇	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ四八	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ三一	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ四九	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ三二	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ五〇	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ三三	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ五一	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ三四	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ五二	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ三五	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ五三	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ三六	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ五四	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ三七	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ五五	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ三八	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ五六	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ三九	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ五七	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ四〇	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ五八	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ四一	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ五九	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ四二	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ六〇	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ四三	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ六一	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ四四	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ六二	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ四五	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ六三	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ四六	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ六四	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ四七	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ六五	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ四八	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ六六	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ四九	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ六七	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ五〇	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ六八	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ五一	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ六九	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ五二	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ七〇	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ五三	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ七一	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ五四	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ七二	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ五五	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ七三	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ五六	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ七四	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ五七	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ七五	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ五八	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ七六	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ五九	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ七七	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ六〇	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ七八	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ六一	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ七九	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ六二	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ八〇	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ六三	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ八一	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ六四	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ八二	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ六五	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ八三	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ六六	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ八四	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ六七	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ八五	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ六八	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ八六	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ六九	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ八七	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ七〇	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ八八	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ七一	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ八九	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ七二	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ九〇	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ七三	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ九一	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ七四	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ九二	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ七五	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ九三	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ七六	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ九四	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ七七	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ九五	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ七八	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ九六	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ七九	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ九七	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ八〇	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ九八	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ八一	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ九九	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ八二	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ一〇〇	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ八三	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ一〇一	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ八四	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ一〇二	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ八五	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ一〇三	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ八六	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ一〇四	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ八七	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ一〇五	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ八八	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ一〇六	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ八九	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ一〇七	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ九〇	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ一〇八	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ九一	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ一〇九	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ九二	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ一一〇	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ九三	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ一一一	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ九四	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ一一二	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ九五	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ一一三	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ九六	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ一一四	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ九七	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ一一五	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ九八	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ一一六	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ九九	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ一一七	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ一〇〇	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ一一八	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ一〇一	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ一一九	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ一〇二	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ一二〇	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ一〇三	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ一二一	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ一〇四	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ一二二	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ一〇五	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ一二三	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ一〇六	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ一二四	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ一〇七	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ一二五	同	四七・五三	一一四・〇四
同	一ノ一〇八	同	九四・〇八	二二五・七九	同	一ノ一二六	同	四七・五三	一一四・〇四

昭和十二年二月九日提出

甲府市長 齋 木 逸 造

昭和十二年二月九日原案可決

町名	地番	地目	地積	貸賃價格	備考
錦町	一ノ一	宅地	六九・五六	二九・一五	
	一ノ八	同	六九・五六	二九・一五	
	一ノ九	同	一四三・六四	五一・一〇	
	一ノ一〇	同	一四三・六四	五一・一〇	
	一ノ一一	同	八八・五五	三七・九一	
	一ノ一二	同	一四九・三四	六二・七三	
	一ノ一三	同	九四・〇八	二五・七九	
	一ノ一四	同	九四・〇八	二五・七九	
	一ノ一五	同	九四・〇八	二五・七九	
	一ノ一六	同	一四九・一七	三五・八〇	
	一ノ一七	同	九三・四八	二四・三五	
	一ノ一八	同	一四五・六〇	三四・四四	
	一ノ一九	同	一四四・四七	三四・七三	
	一ノ二〇	同	五〇・四〇	一〇・六六	
	一ノ二一	同	四九・四〇	一八・五六	

同	一ノ二二	同	四八・四〇	一六・一六	
同	一ノ二三	同	四七・五一	一四・〇四	
同	一ノ二四	同	九三・七七	二五・七五	
百石町	三五〇ノ一	同	一三〇・九〇	二六・八〇	
同	三五〇ノ四	同	一三五・七〇	二七・四〇	
同	三五〇ノ五	同	一三〇・三六	二六・七八	
同	三五〇ノ六	同	二五〇・〇八	二五・一六	
計			二、八九・八一	六、三四・一三	

不動産取得ニ伴フ契約締結ノ件契約書

市役所敷地ニ充ツル土地賣買ニ付穴水合名會社ト豫算外義務負擔ニ伴フ契約別紙ノ通締結スルモノトス

昭和十二年二月九日提出

甲府市長 齋 木 逸 造

昭和十二年二月九日原案可決

契 約 書

市役所敷地ニ充ツル土地賣買ニ關シ甲府市長ヲ甲トシ東京市麻布區永坂町六十番地穴水合名會社代表者穴水嘉三郎ヲ乙トシ左ノ契約ヲ締結ス

第一條 甲ハ乙ノ所有ニ係ル別紙ノ土地貳千貳百八拾九坪八合壹勺ヲ金拾參萬七千參百八拾八圓六拾錢ヲ以テ買受ケ乙ハ之ヲ賣渡スモノトス

第二條 甲ハ前條ノ買受代金ノ内金六萬八百八拾八圓六拾錢ヲ昭和十二年三月三十一日迄ニ支拂ヒ殘金七萬六千五百圓ハ昭和十四年度ニ於テ起債ノ許可ヲ受ケ借入ヲ爲シタル日ヨリ昭和十五年三月三十一日迄ニ支拂フモノトス

第三條 乙ハ前條ノ代金内拂ヲ受クルト同時ニ所有權ノ移轉登記ヲ爲シ土地ヲ甲ニ引渡スモノトス

第四條 乙ハ第二條ノ支拂殘金ニ對シテハ利子ヲ附セザルコトヲ特約ス

第五條 乙ハ本契約ニ先チ寄附願出タル甲府市役所改築費金壹萬參千五百圓ヲ第二條ノ殘金ノ支拂ヲ受クルト同時ニ甲ニ納入スルモノトス

右契約ヲ證スル爲本書式通ヲ作成シ當事者各壹通ヲ所持ス

昭和十二年 月 日

買受人 甲府市 長 齋 木 逸 造

東京市麻布區永坂町六十番地

賣渡人 穴水合名會社

右代表者 穴 水 嘉 三 郎

第四章 荒川沿岸用水幹線改良事業

第一節 溜池設置計畫及豫算

本事業は前章竝に前々章に於て敘述した如き事情に據り計畫せるものにして、以て荒川に於ける河川公水の使用統制を圖り進んで社會公共の利益を完からしむる爲に、工事も縣が直接施行せるものである。尤も荒川に於ける耕地灌漑用水は逐年渴乏を告げ、早魃に禍されて蒙むれる被害は甚だ大なるものがあるを以て、縣當局は之が實情に鑑みて早くより農業水利の改良を圖るべき方途に關して調査に手を染めて居たのである。其の初は大正十一年本市最初の水道擴張調査と相前後して農商課齋藤技師が大いに傾注され、其の後調査せし事屢々にして、昭和三年九月より調査にかゝれる本市の水道擴張計畫に對する沿岸村の傳統的反對に著しく其の刺戟を受け、之と相俟つて具體化せんとし、殊に之の事業は本市の水道擴張計畫が其の水源を荒川に求むる以上至大の關係あるを以つて、之の點縣當局も荒川水利改良或は統制上深く念ひを將來に及ぼして、敘上の如く水道擴張の姉妹事業として實施を見るに至れるものである。然して之の見地から完全に其の目的を遂行する爲には、幾度か調査計畫を立案し、尙主務省の指示をも仰ぎ、左の如き實施設計の決定を得たのであるが、本施設の實施に據つて沿岸關係村の直接間接享ける利益は蓋し大きいものがあらう。

荒川沿岸用水改良事業計畫概要

一、甲府市ノ分

第一章 事業ノ目的

荒川沿岸耕地壹千六百餘町歩ハ用水不足ノ爲メ年々殆ド旱魃ノ被害ヲ蒙ルヲ以テ之ガ用水補給ヲナス爲メ竝ニ甲府市ニ於テ水道使用量ノ増加ニ依リ現在荒川ヨリノ取水四・三五秒立方尺ニテハ不足ヲ來シ第一期擴張計畫トシテ七・四秒立方尺ニ更ニ第二期擴張計畫トシテ一・〇五秒立方尺ニ増加取水セントスル計畫アルヲ以テ灌溉用水ニ支障ヲ生セシメサル様貯水池ヲ新設シ兩者ノ補給ヲナサントスルモノニシテ之ニヨリテ甲府市上水道モ安全ニ第二期擴張水量分ヲ取入レ得ルモノトス

第二章 計畫說明

(イ) 甲府市上水道第二期擴張ニ依ル補給水量
灌溉期ニ於ケル連續旱天日數ト荒川流量ヲ比較研究ノ結果灌溉期ニ於ケル所要補給水量ハ二九、七〇〇、〇〇〇立方尺ナリ
(ロ) 現在ノ旱魃補給水量
連續旱天日數、被害實狀調査單位用水量及灌溉面積等考慮ノ上計算ノ結果所要水量ハ二九、九七七、五〇〇立方尺トナル
(ハ) 用水源
兩所要水量合計五九、六七七、五〇〇立方尺ノ水量ヲ貯水スル爲メニ溜池好適地ヲ千代田村ニ二ヶ所敷島村ニ一ヶ所選定シ以テ用水源トス各溜池ヲ一括シテ表示セバ次ノ如シ

溜池名	流域面積 (直接)	同(間)	接上	満水面積	貯水量 (立方尺)	最高堰堤 高天端長	満水面上 ノ餘裕	馬踏幅	内法備考
丸山	四〇町歩			二四町二反二畝	四六、九五四、〇〇〇	六二・〇五尺	七・〇尺	二〇・〇尺	二割三分
芹澤	三六リ	(丸山ト共通ナル)		二町五反〇畝	五、〇八九、〇〇〇	六八・七一尺	八・〇尺	三・〇尺	二割三分
後澤	六六リ			三、四四三町歩	三三、五五六	四五・五間	八・〇尺	三・〇尺	二割五分
計	五八四町歩			三、三三三町歩	六〇、四五五、〇〇〇	八二・二尺	九・〇尺	三・〇尺	二割三分

而シテ以上三溜池ハ充分安全率ヲトリテモ猶ホ非灌溉期中ニ満水シテ餘裕アルモノナリ

三溜池ノ總貯水量ハ六〇、四五五、〇〇〇立方尺ニシテ前記所要補給水量五九、六七七、五〇〇立方尺ニ比シ七七七、五〇〇立方尺ノ餘裕ヲ有ス

(ニ) 導水路

溜池ヨリ放流セル補給水ハ兩岸及底練岩積ノ新設水路ニヨリテ直接ニ各村用水堰ニ導水シテ補給灌溉セシム

(ホ) 取入堰ノ改修

現在ノ灌溉ノ用ニ供セル取入堰中ニハ其ノ構法不完全ニシテ滲透大ナルモノ或ハ流路屈曲シテ損失水量大ナルモノ或ハ勾配緩ニ過ギテ充分ナル通水能力ナキモノ等ノ堰ハ改修シ以テ灌溉上支障ナカラシム

第三章 事業費

一金 八拾壹萬圓

内 譯

金七拾萬貳千圓

工事費

第四章 荒川沿岸用水幹線改良事業

第二編 上水道擴張

事 務 費

六〇〇

金七 萬 圓
金參萬八千圓

豫 備 費

二、沿岸村ノ分

荒川沿岸用水改良事業計畫概要

第一章 計畫地域ノ現況

本事計畫地域ハ荒川ヲ用水源トスル灌溉耕地ニシテ地勢上甲府市ヲ略中央トシ上流部耕地ニハ敷島村池田村千塚村大宮村ノ耕地約六百町歩下流部耕地ニハ甲府市外貢川村玉諸村住吉村山城村朝井村大鎌田村二川村ノ一部ノ耕地ヲ包括シ灌溉面積壹千町歩合計壹千六百町歩ニ及ブ

荒川ノ水質ハ清澄ニシテ上流部ハ人家少ク甲府市ハ上水道ノ爲西山梨郡千代田村宇平瀬ニ於テ平均四・三五秒立方尺ヲ取水ス灌溉用取水口ハ三十四ヶ所アリテ用水不足シ年々早魃被害ヲ蒙ル状態ナリ

第二章 事業ノ目的

前章記載ノ如キ早魃被害ヲ除去スル爲メ新ニ溜池ヲ設置シ用水ノ補給ヲナスト同時ニ甲府市水道使用水量ノ増加ニヨリ現在ノ取水量四・三五秒立方尺ニテハ不足ヲ來ス現狀ナルヲ以テ最近第一期計畫トシテ七・四秒立方尺更ニ第二期計畫トシテ一・〇秒立方尺ヲ沿岸灌溉用水雜用水及水車等ニ影響ヲ及ボス事ナク安全ニ取水セシメントスルモノナリ

第三章 計畫說明

早魃被害除去ニ要スル水量ト甲府市上水道擴張ニ因ル増加取水量(11.05-4.35=6.7秒立方尺)ヲ安全ニ補給シ得ル貯水池ヲ築造スルモノニシテ兩者ノ所要水量計算次ノ如シ

(イ) 現在ノ早魃補給水量

現在ノ早魃被害ヲ完全ニ除去シ過去ノ美田ニ復舊セシムルニ必要ナル水量ヲ完全ニ補給セシム其水量ヲ連續旱天日數被害實狀調

査單位用水量及灌溉面積等考慮計算ノ結果二九、九七七、五〇〇立方尺ヲ要ス

此ノ補給水量ハ現在ノ被害ヲ除去スルニ充分安全率ヲ見込ミタルモノニシテ工事實施後ハ全ク早魃被害ヲ除キ得ベシ

(ロ) 上水道第二期擴張ニ依ル補給水量

連續旱天日數ト荒川流量ヲ比較研究ノ結果灌溉期ニ於ケル所要補給水量ハ二九、七〇〇、〇〇〇立方尺トナル

此ノ補給水量モ亦充分安全ヲ見込ミタルヲ以テ一、〇五秒立方尺ヲ上水道ノ爲メ取水セラル、ト雖モ何等荒川沿岸ニ於ケル灌溉用水ニ影響ヲ與フル事無シ

(ハ) 用 水 源

兩所要水量合計五九、六七七、五〇〇立方尺ノ水量ヲ貯水スルタメニ溜池好適地ヲ千代田村ニ二ヶ所敷島村ニ一ヶ所選定シ以テ水源トス

各溜池ヲ一括シテ表ニ示セバ次ノ如シ

溜池名	流域面積(直接)	間	上	満水面積	貯水量(立方尺)	最高堰堤高	満水面一	馬踏幅	内外	法	備考
丸山	四八〇町歩			二四町二反二畝	四六、九五四、〇〇〇	六・〇五尺	七〇尺	三〇〇尺	二割三分	割	
丸山	四八〇町歩			二四町二反二畝	二七、三六〇	四三・五間	七〇尺	三〇〇尺	二割三分	割	
丸山	四八〇町歩			二四町二反二畝	五、〇八九、〇〇〇	六・七二尺	八〇尺	二二〇尺	二割三分	割	
丸山	四八〇町歩			二四町二反二畝	二二、五六〇	四三・五間	八〇尺	二二〇尺	二割三分	割	
丸山	四八〇町歩			二四町二反二畝	八、四二二、〇〇〇	八七・二八尺	九〇尺	二二〇尺	二割五分	割	
丸山	四八〇町歩			二四町二反二畝	三六、九四四	八・五〇間	九〇尺	二二〇尺	二割三分	割	
丸山	四八〇町歩			二四町二反二畝	六〇、四五五、〇〇〇	二七・八八四	九〇尺	二二〇尺	二割五分	割	
丸山	四八〇町歩			二四町二反二畝	二七、九八四	八・五〇間	九〇尺	二二〇尺	二割三分	割	
計	五八四町歩			三町一反四畝	六〇、四五五、〇〇〇	二七・八八四	九〇尺	二二〇尺	二割五分	割	

而シテ以上三溜池ハ充分安全率ヲトリテモ猶ホ非灌溉期中ニ満水シテ餘裕アルモノナリ

三溜池ノ總貯水量ハ六〇、四五五、〇〇〇立方尺ニシテ前記所要補給量五九、六七七、五〇〇立方尺ニ比シ七七七、五〇〇立方

第四章 荒川沿岸用水幹線改良事業

六〇一

尺ノ餘裕ヲ存ス

(二) 導水路

溜池ヨリ放水セル補給水ハ兩岸及底練石積ノ新設水路ニヨリテ直接ニ各村用水堰ニ導水シテ補給灌溉セシム

(ホ) 分配水量

各村ヘノ補給水量ハ詳細ナル被害程度單位用水量及被害面積等詳細ナル調査ニ基キ公平且合理的ニ分配シ以テ現在ノ旱魃被害ヲ皆無ナラシム

(ハ) 取入堰改修

現在灌溉ノ用ニ供セシ取入堰中ニハ其ノ構法不完全ニシテ滲透大ナルモノ或ハ流路屈曲シテ損失水量大ナルモノ或ハ勾配緩ニ過ギテ充分ナル通水能力無キモノ等ノ堰ハ改修シ以テ灌溉上ノ支障ヲ無カラシム

(ト) 水車ニ及ボス影響

灌溉期ト非灌溉期トニ分チテ説明ス

(1) 灌溉期

本計畫ハ前記載ノ如ク水道ニ依リ増加取水セラル、水量ハ完全ニ補償シ加フルニ現在ノ旱魃被害ヲ全ク除去スル爲ニ補給水ヲ一反歩平均約二十五坪溜池ヨリ放流スルヲ以テ各用水堰ノ水量ハ増加スルコトハ明カニシテ且配水新設水路ノ連絡ニハ注意シ以テ各位置ニ於ケル水車ヲシテ營業上ノ支障ヲ無カラシムルヲ以テ何等影響ヲ與フル事ナシ

(2) 非灌溉期

龜澤川ト荒川ノ合流點ニ於テ兩川ノ流域面積ヲ調査スルニ八・七二方里ニシテ湧水量七十二箇アリ
此ノ流量中控除セラル、水量ハ三ヶ所ノ溜池設置ニ依ツテ生ズル荒川ノ減水量ヲ計算スルニ九八三町歩(〇・六三二方里)ニシテ安全ヲ見込ミ此ノ〇・六三二方里ニ於ケル流出量ハ非灌溉期間中全部溜池内ニ貯水セラル、モノトシ之ニヨル荒川ノ減水量ヲ

計算スルニ

$8.257 \times 0.632 = 5.22$ 箇

依ツテ荒川ノ殘水量ハ

$72.0 - (11.05 + 5.22) = 55.73$ 箇

然ルニ荒川沿岸ニ於ケル水車ノ分布ハ一ノ堰八幡堰(二ノ堰)三ノ堰東側堰呑川堰ノ五堰ニシテ就中一ノ堰東側堰ニ稠密ナリ各堰ニ於ケル最大水車ノ使用量ヲ實測セル結果ハ次ノ如シ

流量測定

昭和七年十一月十八日

自午前十一時
至午後三時

附記
敷島製水株式會社

堰名	斷面(平方尺)	流速(尺毎秒)	流量(立方尺毎秒)
一ノ堰	5,770	4.07	23,489
八幡堰(二ノ堰)	1,910	2.05	3,905
三ノ堰	1,575	2.97	4,675
東側堰	4,310	2.86	12,353
呑川堰	6,210	1.56	9,684
計			53,555

以上ノ數量ト比較スルニ

$55.73 - 53.8575 = 2.1425$ 秒立方尺

即チ猶ホ二・一四箇ノ餘裕ヲ存ス

依テ非灌溉期間中ト雖モ本計畫ハ水車ニ影響ヲ與フルコト無キモノト認ムレドモ實際ノ被害アル場合ハ適當ノ處置ヲナス

(チ) 雑用水ニ與フル影響

各堰ノ取水量ニ比較スルトキハ雑用水ハ極メテ微々タルモノニシテ且大部分ハ反覆使用スルモノナレバ之ニ及ボス影響亦無シ

第四章 荒川沿岸用水幹線改良事業

第四章 結論

本事業施行ハ荒川沿岸耕地ノ旱魃、補給ヲナシ現在ノ被害ヲ皆無ナラシムルト同時ニ甲府市上水道ニ一・〇五秒立方尺取水セシムルモ何等沿岸耕地ニ影響ヲ與ヘザルノミナラズ各堰ニ於ケル水車及雑用水ニモ影響ヲ與ヘザルモノナリ

荒川沿岸用水幹線改良事業變更計畫概要

一、現況

1. 事業地域

本地域ハ甲府市外十一ヶ村ノ荒川沿岸ノ耕地ヲ包抱シ關係地積一千七百餘町歩ニ及フ

2. 水利狀況

荒川ノ流域面積ハ千秋橋（甲府市ノ南端）ニ於テ一、三三二方里アリ灌溉期ニ於ケル湧水量一二三、六秒立方尺平水量二六三秒立方尺アリ右流量ニ對シテ本流ノ取水スルモノ三十ヶ所貢川ヨリ取水スルモノ六ヶ所合計三十六ヶ所ノ用水堰アリ其ノ總取水量二七九、七箇（此ノ水量中ニハ反復利用サル、水量ヲ合ム）ニシテ湧水量ニ比シテ所要水量大ナルヲ以テ年々旱魃ノ被害ヲ蒙リ昭和二年ニ於ケル旱魃被害ハ免租地積數百町歩ニ及ベリ

二、事業ノ目的

本地域ノ水源タル荒川及其ノ支流タル貢川ノ河水ハ毎年流量減少スル爲各堰共ニ取水困難ニシテ其ノ旱害ノ甚大ナル實狀ニ鑑ミ之カ用水補給ヲナスト同時ニ甲府市上水道使用水量ノ増加ニ因リ現在ノ西山梨郡千代田村平瀬池内ニ於ケル荒川ヨリ取水四、三五秒立方尺ヲ取水シツ、アルモ用水ニ不足ヲ來セルヲ以テ増水計畫トシテ總量一一、〇五箇ニ増加取水要アルヲ以テ之等兩者ヲ一括シ縣營用水幹線改良事業ヲ計畫シ沿岸灌溉用水ニ支障ヲ及ボス事ナク一一、〇五秒立方尺ノ安全ニ取水セシムル用水源ヲ新設スルニ在リ

三、計畫ノ要旨

現況ニ述ベタルガ如ク荒川及其ノ支流タル龜澤川、貢川ハ其ノ水量及慣行上ヨリ各堰ノ取水量ヲ増加スルコトハ不可能ナル實狀ナルヲ以テ旱魃、補給水量二九・九七七・五〇〇立方尺分ト上水道擴張取水量六・七秒立方尺（二九・七〇〇、〇〇〇立方尺）ノ合計所要水量ヲ得ムガ爲西山梨郡千代田村ニ丸山溜池中巨摩郡敷島村後澤溜池ノ二溜池ヲ築造シテ現在ノ旱魃ヲ除クハ勿論現在ノ水道取入口ニ於テ一一、〇五秒立方尺ヲ荒川ヨリ取水スルモ何等沿岸耕地ニ支障ナカラシメムトスル計畫ナリ而シテ各貯水池ヨリ耕地ヘノ配水方法ハ直接ニ荒川ニ放流セシメズ幹線水路ニ導水セシメ現在ノ各取入堰ニ所要水量ヲ順次分水セシムルモノナリ

次ニ計畫ノ要項ヲ列舉セリ

1. 丸山溜池

一、溜池 堰堤

位置 西山梨郡千代田村大字下帶那地内

満水面積二十五町六段五畝歩

給貯水量二十四萬千八百四立坪（五二、二二九、七七二立方尺）

流域 四百八十一町三段五畝歩

二、餘水 吐

堰堤防護上絶對安全ヲ期スル爲最近十五ヶ年間最大雨量七五・四耗ノ全排水量一、〇三二・八秒立方尺ヲ四時間内ニ排除セムトス即チ隧道入口ノ池上ニ延長一〇八尺ノ溢流堰ヲ設置シ之ヨリ延長一六間餘水吐隧道ニヨリ底樋隧道ニ連絡セシム

三、豎樋

豎樋管ハ右岸地山ヲ掘鑿シ八分五厘勾配ニ直徑二尺ノ鐵管ヲ設ケ底樋隧道ト連絡セシメ放水ハスルースバルブ装置トシ満水位ヨリ直高十二尺毎ニ直徑二尺引入孔ヲ設ケ手働用捲揚機ニ依リ閉閉ス

第四章 荒川沿岸用水幹線改良事業

四、底 樋

右岸ノ花崗岩地山ヲ掘鑿シ途中餘水吐隧道ト連絡セシム斷面ハ幅一〇尺高一四尺七寸四分側壁一尺底五寸ノ捲立隧道トシ延長五七間ニシテ放水路ニ放流セシム

五、放 水 路

隧道出口ヨリ混凝土開渠トシ延長六五間八、上幅一五尺下幅一二尺深五尺ノ斷面ニヨリ惠那川ニ放流ス

2. 塔岩澤川ヨリノ取入隧道

丸山溜池ノ直接集水量ハ貯水容積ニ比シ六・三六一。五〇五、九二立方尺不足スルヲ以テ非灌溉期ニ可及的ニ取水シ灌溉ニ於テハ豪雨ノ場合等下流部ニテ不必要ナル水量ヲ取水スル計畫ニシテ給水延長九七六間七分斷面ハ取水量七〇秒立方尺基礎トシ隧道開渠掛樋ニヨリ芹澤導水管ニ連絡導水セシム

3. 芹澤導水管工

引入隧道竝ニ連絡隧道トノ中間ニ計畫セラレタル芹澤溜池ノ築造ハ地質不良ノ結果廢止セラレタルヲ以テ兩者ノ連絡ニ代リ芹澤導水管ヲ新ニ計畫シ内徑四尺ノ二十五封度對壓ヒューム管ノサイフォンヲ新設セリ

4. 連絡隧道

塔岩澤川ヨリ取入導水セル補給水量ヲ芹澤導水管渠ヨリ延長二九三間四分幅五尺高六尺五寸勾配六百分ノ一捲立隧道トシ丸山溜池補給スルモノニシテ出口ニハ門扉ヲ設ケ捲揚ニヨリ開閉裝置トセリ

5. 後澤溜池

位置 中巨摩郡敷島村字後澤地内
満水面積四町一段九畝三步
流域 六十八町二段二畝二十七步

(直接流域) 二千九百四十五町步

(間接流域) 龜澤川流域)

總貯水量三萬五千五百九十五立坪、(七、六八七、五一三、二二立方尺)

6. 幹線用水路計畫

新設用水幹線ノ配水ハ丸山溜池ヨリ帶那川ニ流下セシメ之ヨリ新設幹線第一號用水路ニ導水シ鐵筋混凝土管ニヨリ延長七五三間七分ニシテ縣道ヲ横斷セシメ、ニ於テ第二號用水幹線トシテ一部ハ大宮村千塚村分ノ補給用水ニ分水セラレ其ノ他ハ荒川ヲ「逆サイフォン」ニヨリ横斷シ右岸ニ於テ後澤溜池ノ貯水ヲ加ヘ右岸地域流下ノ各分水堰ニヨリ用水補給ナサムトスル計畫ナリ

同事業費内譯書

事業費總額	八一〇、〇〇〇、〇〇〇圓
第一事業費	三七四、四八八、〇〇〇
内 譯	
丸 山 溜 池	三〇六、一〇二、〇〇〇
堰堤費其他工事費	一〇九、七〇六、四三〇
土地買收補償費	一九六、三九五、五七〇
連 絡 隧 道	一六、四八四、一六〇
取 入 隧 道	一九、九七三、六一〇
事 務 費	三一、九二八、二三〇
第二期事業費	四三五、五一二、〇〇〇
取 入 隧 道	七九、三八九、六五〇
丸 山 溜 池 嵩 上 費	一、〇〇〇、〇〇〇
芹 澤 導 水 管 費	二、一四〇、〇〇〇

第四章 荒川沿岸用水幹線改良事業

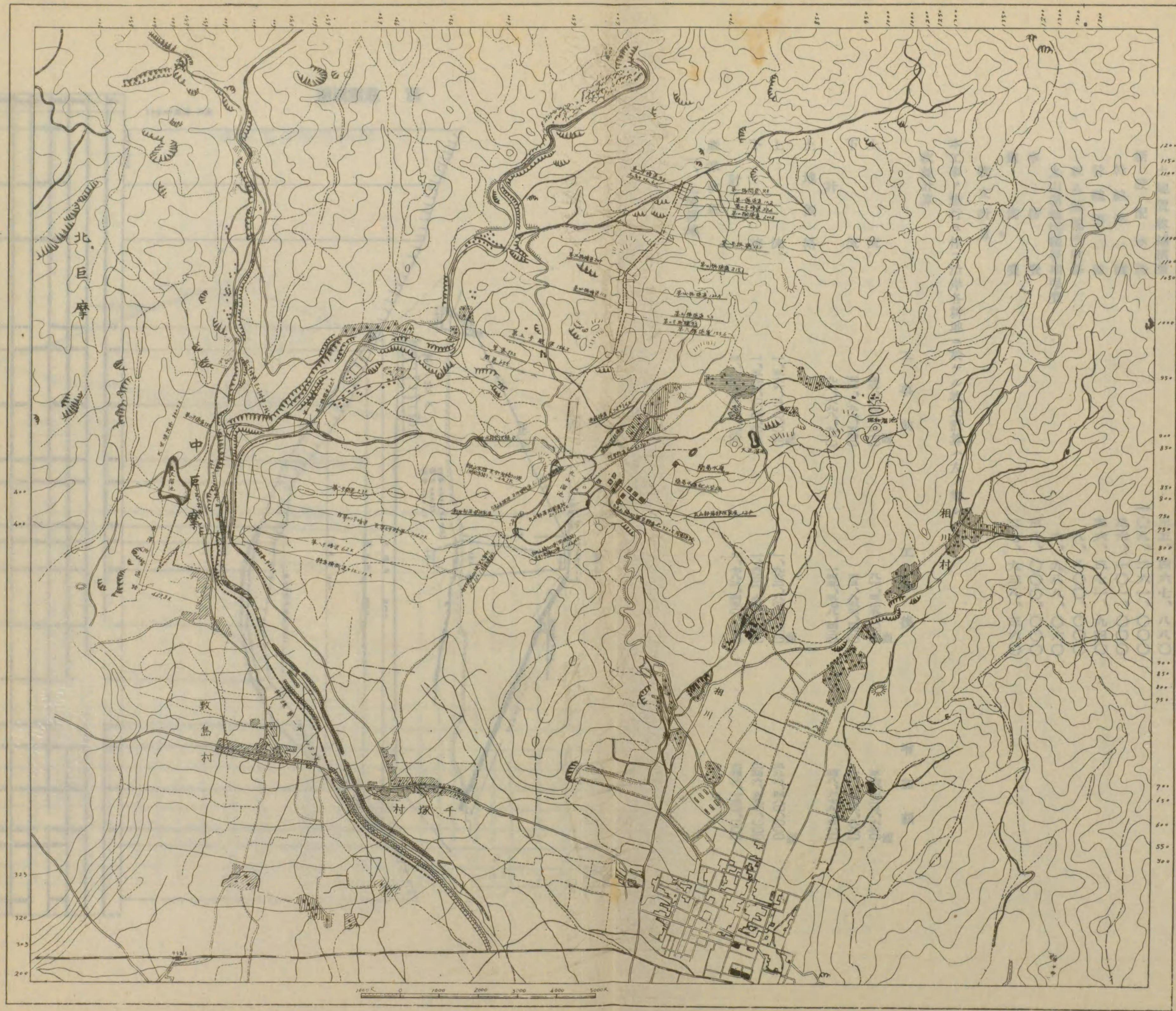


第二編 上水道擴張

後澤溜池費	一五七、七八二、九九〇
土地買收補償費	一二二、三一五、一一〇
新設配水路	三五、四六七、八八〇
幹線第一號	一〇八、二六一、〇〇〇
幹線第二號	三六、一〇一、〇〇〇
取入堰樋門收修	五六、三七一、九四〇
丸山溜池底樋管補強費	八、八〇〇、〇〇〇
豫備費	六、九八八、〇六〇
事務費	三八、〇〇〇、〇〇〇
豫備費	二七、九三八、三六〇

本工程ノ施行ニ伴フ沿岸各耕地ニ於ケル收支計算ハ左ノ如シ

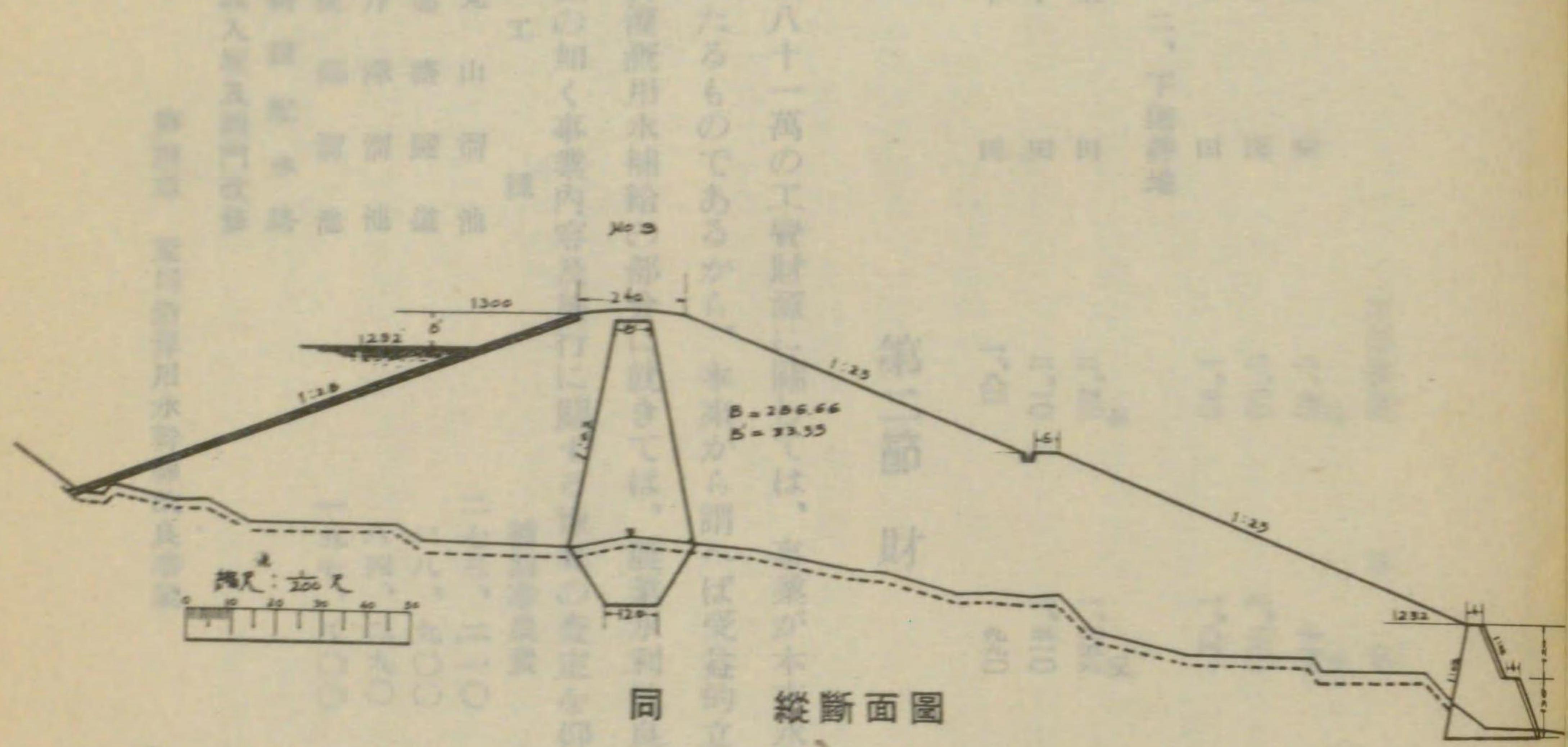
收益計算		工事後		増加額	
上流	四、八〇一、三七〇	八、五三五、〇〇〇	三、七三三、六三〇		
下流	五、八九七、五四〇	六、八五三、四〇〇	一、〇九五、八八〇		
土地價格	九六、六九八、九二〇	一四、三七八、四二〇	四八、六七九、五〇〇		
上流	一、五六六、三〇〇	一、九六二、八〇〇	三九六、四八〇、〇〇〇		
下流	一、五七四、〇〇〇	一、八二〇、五〇〇	二四六、五〇〇、〇〇〇		
產米收益	三、一四〇、三三〇、〇〇〇	三、七八三、四四〇、〇〇〇	六四三、一三〇、〇〇〇		
一、上流耕地					



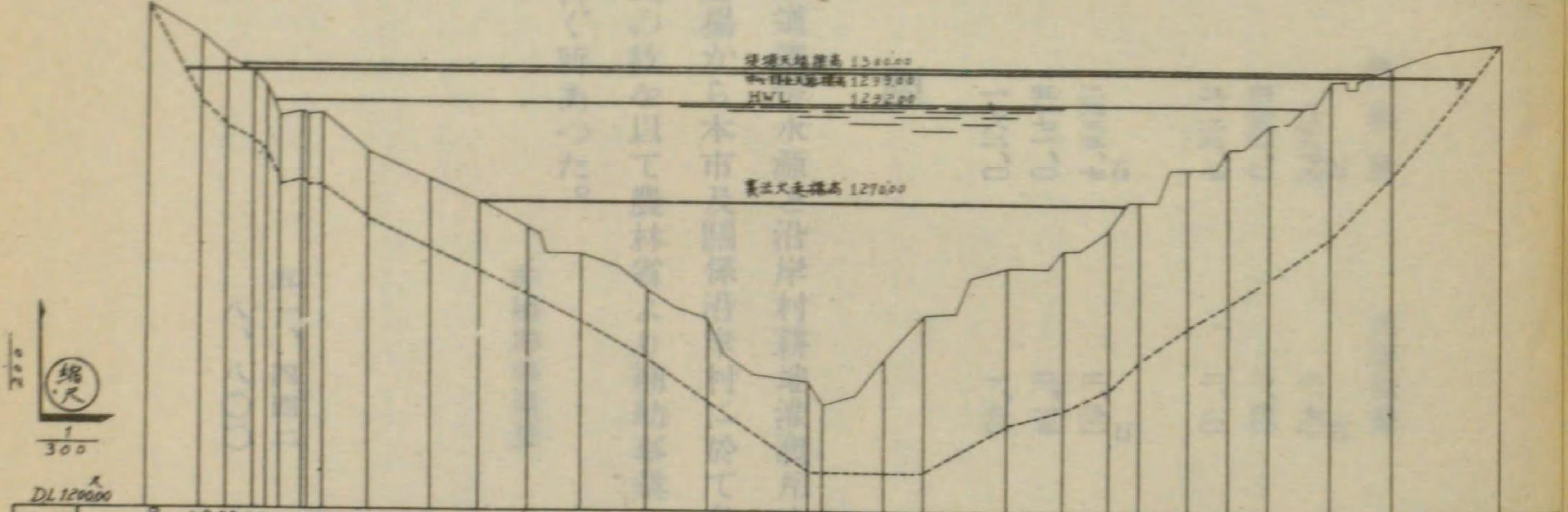
荒川沿岸用水幹線改良事業一般圖

1200
1150
1100
1050
1000
950
900
850
800
750
700
650
600
550
500

後澤堰堤横断面図

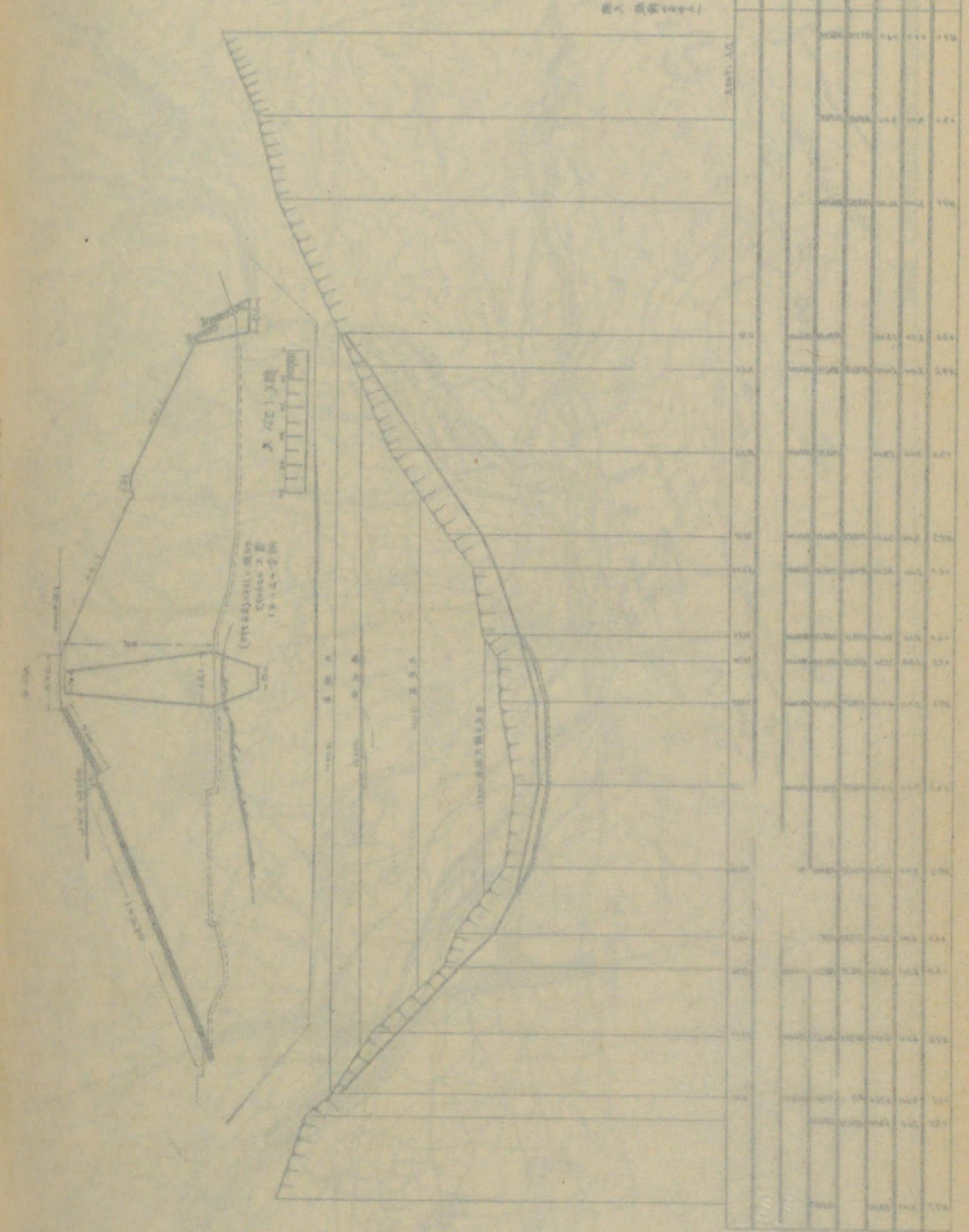


同 縦断面図



測点	位置	標高	距離	断面	面積	容積
1	堰頂	12.92	0.00			
2	堰頂	12.92	1.00			
3	堰頂	12.92	2.00			
4	堰頂	12.92	3.00			
5	堰頂	12.92	4.00			
6	堰頂	12.92	5.00			
7	堰頂	12.92	6.00			
8	堰頂	12.92	7.00			
9	堰頂	12.92	8.00			
10	堰頂	12.92	9.00			
11	堰頂	12.92	10.00			
12	堰頂	12.92	11.00			
13	堰頂	12.92	12.00			
14	堰頂	12.92	13.00			
15	堰頂	12.92	14.00			
16	堰頂	12.92	15.00			
17	堰頂	12.92	16.00			
18	堰頂	12.92	17.00			
19	堰頂	12.92	18.00			
20	堰頂	12.92	19.00			
21	堰頂	12.92	20.00			
22	堰頂	12.92	21.00			
23	堰頂	12.92	22.00			
24	堰頂	12.92	23.00			
25	堰頂	12.92	24.00			
26	堰頂	12.92	25.00			
27	堰頂	12.92	26.00			
28	堰頂	12.92	27.00			
29	堰頂	12.92	28.00			
30	堰頂	12.92	29.00			
31	堰頂	12.92	30.00			
32	堰頂	12.92	31.00			
33	堰頂	12.92	32.00			
34	堰頂	12.92	33.00			
35	堰頂	12.92	34.00			
36	堰頂	12.92	35.00			
37	堰頂	12.92	36.00			
38	堰頂	12.92	37.00			
39	堰頂	12.92	38.00			
40	堰頂	12.92	39.00			
41	堰頂	12.92	40.00			
42	堰頂	12.92	41.00			
43	堰頂	12.92	42.00			
44	堰頂	12.92	43.00			
45	堰頂	12.92	44.00			
46	堰頂	12.92	45.00			
47	堰頂	12.92	46.00			
48	堰頂	12.92	47.00			
49	堰頂	12.92	48.00			
50	堰頂	12.92	49.00			
51	堰頂	12.92	50.00			
52	堰頂	12.92	51.00			
53	堰頂	12.92	52.00			
54	堰頂	12.92	53.00			
55	堰頂	12.92	54.00			
56	堰頂	12.92	55.00			
57	堰頂	12.92	56.00			
58	堰頂	12.92	57.00			
59	堰頂	12.92	58.00			
60	堰頂	12.92	59.00			
61	堰頂	12.92	60.00			
62	堰頂	12.92	61.00			
63	堰頂	12.92	62.00			
64	堰頂	12.92	63.00			
65	堰頂	12.92	64.00			
66	堰頂	12.92	65.00			
67	堰頂	12.92	66.00			
68	堰頂	12.92	67.00			
69	堰頂	12.92	68.00			
70	堰頂	12.92	69.00			
71	堰頂	12.92	70.00			
72	堰頂	12.92	71.00			
73	堰頂	12.92	72.00			
74	堰頂	12.92	73.00			
75	堰頂	12.92	74.00			
76	堰頂	12.92	75.00			
77	堰頂	12.92	76.00			
78	堰頂	12.92	77.00			
79	堰頂	12.92	78.00			
80	堰頂	12.92	79.00			
81	堰頂	12.92	80.00			
82	堰頂	12.92	81.00			
83	堰頂	12.92	82.00			
84	堰頂	12.92	83.00			
85	堰頂	12.92	84.00			
86	堰頂	12.92	85.00			
87	堰頂	12.92	86.00			
88	堰頂	12.92	87.00			
89	堰頂	12.92	88.00			
90	堰頂	12.92	89.00			
91	堰頂	12.92	90.00			
92	堰頂	12.92	91.00			
93	堰頂	12.92	92.00			
94	堰頂	12.92	93.00			
95	堰頂	12.92	94.00			
96	堰頂	12.92	95.00			
97	堰頂	12.92	96.00			
98	堰頂	12.92	97.00			
99	堰頂	12.92	98.00			
100	堰頂	12.92	99.00			
101	堰頂	12.92	100.00			

堰 基礎断面図



第二編 上水道擴張

六一〇

事業費	六四、〇〇〇	五、六〇〇
豫備費	三四、九五九、八	三三、〇四〇二
合計	七四一、一一七、八	六八、八八二二

乃ち貯水池及其の他の附屬設備等を補給水量から水道水源用、灌溉補給用と夫々五分五分に相當するを以て總工費も又半々に區別するを得るので、其の半額金四十萬五千圓を以て施行する分は農業水利改良事業に相當するを以て、査定に随つて補助事業に屬する部分をも折半して、之に對して、國庫より二分の一の補助金十八萬五千二百七十九圓を交付せらるゝ事となつた。故に沿岸關係村は殘る半額と査定より省かれた非補助事業費の半額を縣へ負擔する事となつた。

次に本市は水道擴張水源用の施設に對して、國庫よりの補助金は無論ないのであるから、其の全額と、又非補助事業の分に就きては、施行團體である縣に於て當然負擔すべきであつたが、計畫の動機等からして、水道擴張工事施行に伴ふ縣道改修費の一部を負擔する名の下に、併せて本市が負擔するの協調に基いたのである。

更に關係沿岸村の負擔する部分に關しては、縣の調停的意味を體得して沿岸村に向ふて、其の金額を寄附し、從つて本市は、縣負擔金三十七萬五千九百九十九圓、縣道改修費指定寄附金三萬七千五百五十五圓、關係沿岸村寄附金二十一萬七千七百七圓の、國庫補助金を除く全額を支出する事となつた次第である。

- 一、荒川沿岸用水幹線改良事業溜池設置並附屬工事費豫算外負擔金ニ關スル件外二件(第二章第六節參照省略)
- 二、自昭和八年度山梨縣甲府市荒川沿岸用水幹線改良事業溜池設置並附屬工事費寄附及負擔繼續年期及支出(第三章第一節參照省略)

三、同收支計算表(同)

關係村負擔金各年度別内譯 (内ハ變更前、他ハ變更後)

年 度	甲 府 市	千 塚、大 宮 村	敷 島 村	池 田 村	村 合 計
昭和八年度	(一四、〇〇〇・〇〇)	(三四、六五五・九四)	(三五、七六・三)	(四、六五五・九四)	10年、〇12・00
昭和九年度	(一四、〇〇〇・〇〇)	(三四、六五五・九四)	(三五、七六・三)	(四、六五五・九四)	三〇、六20・00
昭和十年度	(一〇、七五〇・〇〇)	(二二、七五五・四九)	(一三、一四一・〇一)	(一三、七五三・四九)	10、117・90
昭和十一年度	(一〇、七五〇・〇〇)	(九、六五八・七六)	(一〇、二五五・四八)	(一〇、六五八・七六)	六七、八三三・〇〇
昭和十二年度	(三、六六六・〇〇)	(四、五七五・二)	(三、三八四・八九)	(四、五七五・二)	一三、六六六・〇〇
計	(三七〇、五五九・〇〇)	(七、六四五・三)	(七、八八六・三六)	(七、六四五・三)	117、104・00

第三節 施工及期間延長

本工事は水道擴張計畫に密接なる關係を有するものであるから、工事着手も同様に併行的に進むる必要がある。昭和八年度よりとなし、竣工は一ヶ年遅れて四ヶ年繼續を以て施行する設計の下に、認可に要する一切の準備を取揃へて、本市よりの稟申手續に續いて昭和八年五月二十日工事施行認可方竝に補助金交付方を關係主務大臣宛稟申の手續に及んだ。而して本件に關しても豫め主務省の諒解は勿論、進んで設計上幾多の指示をも仰ぎて計畫せしを以て審査は至極順調に進捗し、唯内務省に於て丸山溜池堰堤其の他の點に關して技術的立場から嚴密なる調査を得たが、縣及本市より係員夫々上京の上大いに促進に努めた結果、兩者の意見全く一致したるを以て同八月十四日認可の指令に

接するを得たのである。

工事は先づ同年十一月西山梨郡千代田村河方地内に事業改良事務所を設け主任技師以下を夫々配置の上、又施行方法は後で敘述するが如く補助金交付其の他の事情等あつて、全工程を第一期第二期とに區別して施行すべき方針を定め、従つて第一期工事に屬する、丸山溜池築造及芹澤溜池とを連絡する隧道の開鑿より着工すべく、丸山溜池の敷地となるべき二十四町三段三畝餘の用地買収及丸山、針原兩部落の移轉交渉を始めたが、之の折衝は同郡千代田村よりの公課代償要求等が発生して幾多曲折を重ね、之が爲に着工に聊かの支障を來すに至つたので、止むなく之等一部を後廻しにして連絡隧道工事から昭和九年一月より着工を見るに至つたが、紛糾化さんとした用地問題も間もなく諒解となり従つて工事進行の不安は解決した。

尙工事の施行は其の性質上から、特殊の技術を要するものが多かつたので、原則としては直營を以て臨んだのであるが、一般的工事は請負に附したのもあつた様である。施工中の昭和十、十一年度兩度に及ぶ風水害の爲に、相當の被害を蒙り、之が爲多少の支障を來したが、鋭意回復と進捗に留意した結果、極めて順調なる進工振を示して居る。尙之の水被害に鑑み、昭和十年十一月十日日本市からも市會の議決を経、遺漏なき工事の完璧を期せらるゝ様意見書を提出した。

又工事は其の中途に於て屢々計畫設計變更を爲した上施工した部分もあつたが、其の中で比較的目立つた設計變更は芹澤溜池の廢止である。之は同附近の地質が堰堤築造に不適當なる事が同工事着手を前に判明したので、同十年六月頃より屢々再調査を重ね、農林省河原耕地課長、須藤技師及京都帝大山崎、高月兩教等をも煩し意見を徴した上、止むなく之を中止して芹澤溜池に貯蓄すべき水量は丸山の溜池を擴張して之を以て充て、當初計畫目的の遂行は勿

論、豫算に於ても其の範圍内にて施工すべく其の手續を経て目下夫々工事中である。

(前節 變更計畫參照)

又國庫補助金に關しても、當初主務省は事業が第一期及第二期に區別されて居るので、第一期のみが採擇されたのであるが其の交付年度も工事期間後に跨り、従つて工事費豫算中歳入に多大の缺陷を生ずるに至り、又第二期に相當すべき補助金交付方法も第一期の分と同様事業年度後になるを以て、之が歳入缺陷に伴ふ對策に關して縣より其の不足額を本市に於て立替へる様屢々照會があつたが、結局同事業の繼續年限を一ケ年間延期して五ヶ年と爲し、又不足分の内金一萬五千七百五十九圓は補助金下附の際下戻す條件の下に、之を立替し更に昭和十二年度に於て不足すべき金六萬三千八百七十六圓は縣債を以て其の補填を爲し同利子は本市に於て負擔する事に意見一致し、其の手續として同十一年十一月二十八日市會の議決を経て之が決定の上縣の所定せる年度に於て寄附する事となり斯様にして、事業費豫算全體の圓滑なる執行に添ふべくした次第である。

耕發第二十二號

昭和十二年三月二十九日

山梨縣經濟部長

甲府市長 齋木逸造殿

荒川沿岸用水幹線改良事業計畫一部變更ノ件

荒川沿岸用水幹線改良事業ニ於テ施行スル豫定ナリシ芹澤溜池ハ其ノ敷地内ノ地質不良ノ爲農林省ノ指示ニ從ヒ左記ノ通計畫ヲ變更致候條御諒承相成度

第四章 荒川沿岸用水幹線改良事業

追而此ノ變更計畫ニ依リ事業費ノ増額ヲ來スコトナク此ノ變更ノ爲工事期間ヲ變更スルガ如キコト無之候條併セテ御合置相成度申添候

記

芹澤溜池築造豫定地ハ再調ノ結果溜池敷地トシテ不適當ナリト認メラレタルニ依リ之ガ築堤ヲ中止ス芹澤池ニ貯溜スル豫定ナリシモ水量ハ丸山池ノ貯水深サヲ約六寸深ムルコトニ依リ補充シ取入隧道ト連絡隧道トヲ管ヲ以テ連絡シ取入隧道ヨリ丸山池ニ直接導水スルモノトス 以上

耕發第六號

昭和九年一月二十七日

甲府市長 新海 榮 治殿 内務部長

荒川沿岸用水改良事業甲府市負擔金ニ關スル件

昭和八年五月三十一日附庶發第九四號ヲ以テ首標ノ件回答有之候處該事業施行ニ對シ別紙農林省指令書ノ通り採擇事業ト未採擇事業ニ區分セラレ採擇事業費金十八萬五千二百八十圓ヲ認定サレ繼續ハケ年ニ跨リ國庫補助金九萬二千六百四十圓ヲ交付サルルコトトナリ仍テ現在未採擇事業ニ付テモ採擇事業同様ハケ年度ニ亘リ交付ヲ受クルモノト豫定サルルニ付別紙歳入出豫算調査書ノ如ク歳入金額ニ變更ヲ來シ從テ甲府市負擔金額ニハ異動ナキモ昭和九年度以降ニ於テ一時増額變更ヲ要シ之レニ對シテハ後年度ニ於テ下辰金ノ交付ヲ要スル次第ト相成度候ニ付昭和九年度縣豫算(別紙寫)ニ於テモ右豫定ヲ以テ甲府市負擔金計上致候ニ付右豫算更正計上相成度此段及照會候也

農林省指令ハ農第六六九八號

山梨縣

昭和八年五月二十日附耕收第三二二號申請荒川沿岸用水改良事業ニ對シ大正十二年四月十七日附食第一四〇七號用排水改良事業補助要項ニ依リ左記金額ノ範圍内ニ於テ自昭和八年度至昭和十年度豫定事業ニ對スル事業費三十七萬四千四百八十八圓ノ内甲府市ノ水道負擔金十八萬九千二百八圓ヲ控除シタル殘額十八萬五千二百八十八圓ニ對シ事業費支出總額ノ二分ノ一補助金ヲ交付ス

昭和八年八月十四日

農林大臣 後藤 文夫

記

- 昭和九年度ニ於テ 金八千圓也
- 昭和十年度ニ於テ 金四萬六千二百圓也
- 昭和十一年度ニ於テ 金四千六百圓也
- 昭和十二年度ニ於テ 金五千二百九十四圓也
- 昭和十三年度ニ於テ 金三千七百九十九圓九十錢也
- 昭和十四年度ニ於テ 金一萬圓也
- 昭和十五年度ニ於テ 金四千六百七十五圓四十錢也
- 昭和十六年度ニ於テ 金四萬百五十圓七十錢也
- 計 金九萬二千六百四十圓也

庶收第一二一號ノ一

昭和九年一月三十一日

甲府市長 新海 榮 治

第四章 荒川沿岸用水幹線改良事業

山梨縣內務部長 立 田 清 辰 殿

荒川沿岸用水幹線改良事業甲府市負擔金ニ關スル件

本月二十七日付耕發第六號ヲ以テ標記ノ件御照會有之候處本市財政ハ水道擴張荒川改修費國道八號線受益者負擔等ノ臨時事業及支出ニ加ヘ一般ノ經費擴張ノ爲メ極メテ窮迫ヲ告ゲ昭和九年度ニ於テモ起債ヲ仰ガザルヲ得ザル狀態ニ有之自然御申越ノ繰替金支出ノ餘力全ク無之ノミナラズ該事業ニ對スル本市負擔金ニ關シテハ市直接施行ノ水道擴張費ノ財源ト共ニ起債許可稟請ニ當リ溜池工事費ノ國庫補助ノ義ニ關シテハ內務大藏兩省ヨリモ強ク質問セラレタル所ニシテ其際特ニ縣ヨリモ書類ノ提出ヲ煩ハシタル末後日市ノ負擔ニ關シテハ假令補助ノ年次變更ノ場合アルモ縣ニ於テ處理セラレベキ筋合ノモノナレバ此ノ點ハ市財政ニ影響ヲ招カザル言質ヲ徵セラレ是亦兩省ニ於テモ縣カ支出スルヲ適當ト是認セラレ漸クニシテ許可ノ詮議ヲ得タル次第ニ有之候間假リニ市ニ於テ御申越ノ通之ニ應シ之カ負擔金ヲ起債ニ仰グトスルモ到底許可ノ詮議至難ナルハ明瞭ナル所ニ有之候得共之等ノ事情御諒察ノ上縣ニ於テ宜敷御取計相願度此段及貴答候也

耕發第六號

昭和九年八月十六日

甲 府 市 長 殿

內 務 部 長

荒川沿岸用水幹線改良事業昭和九年度豫算ニ關スル件

首標ノ件ニ關シテハ曩ニ農林省ヨリ分割補助ノ指令ヲ受ケ第一期事業分ヲ採擇セラレタル結果昭和九年度以降ニ於テ事業豫算ノ歲入出ヲ變更スルノ止ムナキニ至リシ爲甲府負擔金ノ更正方照會候處一月三十一日付庶發第一二一號ノ一ヲ以テ貴答ニ接シ候得

共、豫而第二期事業ニ就テハ農林省ニ對シ九年度ヨリ採擇方申請中ノ所五月一日付ヲ以テ別紙ノ通り昭和九年度ニ於テ補助相成難キ趣ノ通牒ニ接シ候從テ昭和十年度ニ詮議セラレ、モノト豫定セラレ、故昭和九年度ノ豫算ヲ左記ノ通り變更實行致度關係書類相添ヘ此段及照會候也

追而十年度ニ於テ第一期事業ト同様ノ條件ヲ以テ第二期事業ヲ認可セラレ、モノトセバ事業年度ヲ一ヶ年延長シ別紙繼續年期歲人出變更見込書ノ如ク御市負擔金ハ既定豫算總額中十年度ヲ減額シ十一、十二年度ニ於テ増額セシメ後年度ニ國庫補助金ノ交付アリタル際補助相當額ヲ御市ニ下戻ス見込ニ有之候間御參考迄申添候

九農第六六八九號

昭和九年五月一日

農 林 省 農 務 局 長

山 梨 縣 知 事 殿

昭和九年度用排水幹線改良事業國庫補助ニ關スル件

昭和九年度着手用排水幹線改良事業費補助打合セニ關スル件左記事業ニ對シテハ今回ハ補助相成難ク候條御了知相成度此段及通牒候也

記

荒川沿岸第二期用水改良事業

耕發第八〇號

昭和九年十一月七日

內 務 部 長

第四章 荒川沿岸用水幹線改良事業

第二編 上水道擴張

六二〇

二寄附金	二六、四〇〇・〇〇	五六〇六・〇〇	七九、六四九・〇〇	一、四〇三・〇〇	二、九六一・六二・〇〇
水道布設					
一、道伴國	一一、四〇一・〇〇	一〇、三七一・〇〇	一一、八一六・〇〇	三、四六六・〇〇	
二、道伴國					
寄附指定					
寄附					
水道布設					
件修費指					
定寄附					

荒川沿岸	二五、〇一八・〇〇	四五、六九〇・〇〇	六七、八三三・〇〇	一三、五五六・〇〇	二二、一〇九・〇〇
用水幹線					
改良事業					
二、溜池設置					
三、附屬工事					
四、事業費					
五、附屬工事					
六、事業費					
七、附屬工事					
八、事業費					
九、附屬工事					
十、事業費					
十一、附屬工事					
十二、事業費					
十三、附屬工事					
十四、事業費					
十五、附屬工事					
十六、事業費					
十七、附屬工事					
十八、事業費					
十九、附屬工事					
二十、事業費					
二十一、附屬工事					
二十二、事業費					
二十三、附屬工事					
二十四、事業費					
二十五、附屬工事					
二十六、事業費					
二十七、附屬工事					
二十八、事業費					
二十九、附屬工事					
三十、事業費					
三十一、附屬工事					
三十二、事業費					
三十三、附屬工事					
三十四、事業費					
三十五、附屬工事					
三十六、事業費					
三十七、附屬工事					
三十八、事業費					
三十九、附屬工事					
四十、事業費					
四十一、附屬工事					
四十二、事業費					
四十三、附屬工事					
四十四、事業費					
四十五、附屬工事					
四十六、事業費					
四十七、附屬工事					
四十八、事業費					
四十九、附屬工事					
五十、事業費					
五十一、附屬工事					
五十二、事業費					
五十三、附屬工事					
五十四、事業費					
五十五、附屬工事					
五十六、事業費					
五十七、附屬工事					
五十八、事業費					
五十九、附屬工事					
六十、事業費					
六十一、附屬工事					
六十二、事業費					
六十三、附屬工事					
六十四、事業費					
六十五、附屬工事					
六十六、事業費					
六十七、附屬工事					
六十八、事業費					
六十九、附屬工事					
七十、事業費					
七十一、附屬工事					
七十二、事業費					
七十三、附屬工事					
七十四、事業費					
七十五、附屬工事					
七十六、事業費					
七十七、附屬工事					
七十八、事業費					
七十九、附屬工事					
八十、事業費					
八十一、附屬工事					
八十二、事業費					
八十三、附屬工事					
八十四、事業費					
八十五、附屬工事					
八十六、事業費					
八十七、附屬工事					
八十八、事業費					
八十九、附屬工事					
九十、事業費					
九十一、附屬工事					
九十二、事業費					
九十三、附屬工事					
九十四、事業費					
九十五、附屬工事					
九十六、事業費					
九十七、附屬工事					
九十八、事業費					
九十九、附屬工事					
一百、事業費					

合 計 二四、四四〇・〇〇 九八、一五〇・〇〇 一、四〇三、六一〇・〇〇 一〇、五〇一、〇〇〇 三、五、六六六・〇〇 六、四九七、二二〇

耕發第八十號

昭和十年十一月二十日

甲 府 市 長 殿

經 濟 部 長

荒川沿岸用水幹線改良事業ニ關スル件

貴市上水道擴張計畫ニ伴フ荒川沿岸用水幹線改良事業中第一期事業計畫分ハ既ニ補助指令相受工事進捗中ノ處未採擇ノ第二期事業計畫分モ先般補助ノ内牒ヲ得近ク本指令交付セラルル見込ニ有之尙第二期事業分ノ補助金モ線上交付方變更指令ニ接シ補助金交付ノ年度割ハ左記ノ通り確定致候ニ就テハ工事竣成豫定時期ノ昭和十二年度ヨリ後ニ交付セラルベキ補助金ニ相當スル額ハ當

然工事期間中事業費ノ欠陥ト可相成候處右不足額ニ就テハ曩ニ貴市ヨリノ御回答モ有之候得共本縣財政モ極度ニ逼迫致居リ萬一不足額ノ財源無之場合ハ事業繰延施行スルノ止ムナキニ至ル哉モ難計候
尤モ本事業ハ貴市上水道擴張計畫事業ニ伴フ荒川沿岸村ノ灌溉用水補給事業ナレバ本不足額ハ貴市ニ於テ立替ノ義ニ付篤ト御詮議ノ上至急何分ノ御回報相煩度此段重而照會候也

庶收第二四〇七號

昭和十年十一月二十九日

甲 府 市 長

山梨縣經濟部長殿

荒川沿岸用水幹線改良事業ニ關スル件回答

本月二十日付耕發第八〇號御申越ニ係ル本市上水道擴張計畫ニ伴フ荒川沿岸用水幹線改良事業ニ對スル國庫補助金交付年度ノ關係上本事業ニ欠陥ヲ生ズル分ヲ本市ニ於テ立替方ノ件ニ付テハ貴廳ニ於テモ御承知ノ通り本市上水道擴張計畫立案財政計畫ニ於テ本事業費市債償還年度タル昭和十六年度迄ハ餘裕無之コト、相成居リ候得共出來得ル限り財政ノ差繰ヲ行ヒ昭和十一年度不足額金一萬五千七百五十九圓程度ニ於テ之ヲ立替致様可取計候間御諒承相成度及貴答候也
追而本件立替金ハ昭和十三年國庫補助金交付相成候モノヲ以テ之ヲ補填相成様被致度後日ノ爲豫算外義務負擔トスベキコトノ文書ヲ以テ御明示相受度申添候

荒川沿岸用水幹線改良事業國庫補助金交付年度割表

年 度	國 庫 補 助 金	合 計
昭和九年 度	第一期事業 八、〇〇〇・〇〇〇	
昭和九年 度	第二期事業	
		八、〇〇〇・〇〇〇
		六二一

第四章 荒川沿岸用水幹線改良事業

昭和十年度	五五,111,000	五五,111,000
十一年度	四,600,000	三,600,000
十二年度	五,194,000	三,194,000
十三年度	三,719,000	三,719,000
十四年度	10,000,000	10,000,000
十五年度	四,675,000	三,675,000
十六年度	1,397,000	1,397,000
計	九二,640,000	九二,640,000

耕發第八〇號

昭和十一年二月二十九日

甲 府 市 長 殿

山梨縣知事 土 屋 正 三

荒川沿岸用水幹線改良事業ニ關スル件

荒川沿岸用水幹線改良事業費中昭和十一年度財源不足額金一萬五千七百五十九圓也ニ就テハ曩ニ昭和十年十一月二十九日付庶收第二、四〇七號ヲ以テ貴市ニ於テ立替負擔ノ義得貴答候處本件ハ昭和十三年度ヨリ昭和十六年度迄ニ於テ國庫ヨリ交付サルベキ補助金總額金七萬九千六百三十五圓ヲ財源トシ必ズ返還可致候條御諒承相成度此段及同答候也

荒川沿岸用水幹線改良事業費繼續年入歳出更正豫算

事業費	昭和八年度	110,440	昭和九年度	84,910	昭和十年度	183,877	昭和十一年度	182,552	昭和十二年度	124,403	昭和十三年度	118,403	昭和十四年度	107,000	昭和十五年度	4,675	昭和十六年度	40,500	計	810,000
國庫補助金	變更前	87,000	變更前	87,000	變更前	162,000	變更前	153,368	變更前	107,338	變更前	107,338	變更前	107,000	變更前	4,675	變更前	40,500		185,279

縣負擔金	變更前	11,401	變更後	8,000	變更前	55,111	變更後	33,200	變更前	25,294	變更後	23,712	變更前	107,000	變更後	14,675	變更前	1,397	變更後	120,640
甲府市負擔金	變更前	11,401	變更後	4,107	變更前	9,071	變更後	8,807	變更前	3,566	變更後	3,566	變更前	3,566	變更後	3,566	變更前	3,566	變更後	3,566
關係村負擔金	變更前	114,010	變更後	42,021	變更前	90,733	變更後	88,066	變更前	35,666	變更後	35,666	變更前	35,666	變更後	35,666	變更前	35,666	變更後	35,666
不足額	變更前	105,018	變更後	30,690	變更前	28,933	變更後	47,116	變更前	36,541	變更後	39,842	變更前	15,759	變更後	63,876	變更前	63,876	變更後	79,635

第四節 公課代償問題

本市水道淨水場の地元村である西山梨郡千代田村は、昭和五年五月本市の水道擴張計畫に對して反對を表明すると共に、既設水道用地の爲、減損した公課を代償せよと要求し、更に本市擴張計畫は其の設計の一部を變更し、縣營丸山外二溜池設置工事の施行となるに及ぶや、又復之の溜池設置に伴ふ用地の爲に、廣範圍に亘る公租地を失ふ事なるを以て、其の代償要求方の斡旋を縣へ申出づると共に、市へも要求する所あり、其の間村道占用不承認問題まで波及して、紛糾を繰返す事二ヶ年有餘に及んだのである。

之の公租代償方要求の端は、本市既設水道に對し昭和五年三月三日文書を以て、續いて神宮司村長より屢々交渉を受けたのである。之が措置に關しては、市會の意嚮をも參酌して熟議を凝した結果、後圖計畫を控へて居る際ではあり對沿岸村關係の調整を計る爲に、同五月二十日左の如く市會の決定を経て、其の要求に應ずる事となり、同七月五

日金千圓を寄附したのである。然し乍ら千代田村は尙不満足であつたであらう、之を含めて後圖水道擴張計畫に反對を續けた。

其後水道擴張計畫事業は縣の調停ありて、其の一部を變更して、丸山外二溜池設置事業の施行となつたのであるが之の事業中、丸山、芹澤兩溜池用地の爲に、二十四町一反三畝餘の有租地と、三十二戸の民家移住に伴ふ所得の減損を來し、村財政に及ぼす影響は甚だ大きい、仍つて之に相當する公租の代償を爲すべしと、縣を通じ本市に要求して來た。縣は偶々溜池用地の買収交渉中の折柄、之が禍を爲し、遂に停頓状態に陥つた。然して此儘推移する時は工事の着手に支障を及ぼすので、之が成行を憂慮して、其の態度に付き本市へ照會して來たのである。新海市長は直ちに今井市會議長、齋木、鶴田兩市議と、之が措置に關して打合せの上、同八年十一月二十九日縣廳に於て、佐藤内務部長を中心に、市長、村長の懇談となり、市長より「素より其の義務はないが大乗的立場から協調圓滿を望むに吝でないから形式を離れての懇談ならば夫々の機關に諮り善處する」旨洩したので、前記の用地問題も軌道に乗り着工の運びとなつた。

其の間内務部長の異動や其他の事情から、遂に延び々々となつたが、新海市長は齋木市會議長及び鶴田市議と、其の要求に對する方針を打合せた上、昭和十年二月二日市會協議會に諮つたが、未だ其の機に至らずして更に靜觀するの已むなきに至つた。一方之が要求の速かに達成せん事を期して居た千代田村は、之の協議會の空氣を知つて、本市より別途に願出でた道路占用の件を保留と爲し、茲に兩者は睨み合ひの形となつたのである。

同年八月市會議長であつた現齋木市長の就任を見るに及び、停頓状態にある問題を放置するは、縣の工事に影響するは勿論、竣工間近き本市の擴張工事にも打撃となる事を念慮して、祕かに縣主腦部と會見して其の斡旋を懇請し、

又神宮司千代田村長の内意をも確めた上、徐ろに之が解決に磨り、一方市會に於ても漸次解決促進を希望する空氣濃厚となり、同年十二月二日の市會協議會は「村道占用承認を爲すべし然る上善處す」との大勢にして又同月十一日の協議會は、丸茂、中込、深澤、小林、矢崎(朝)、廣瀬、雨宮の七名を委員に選任し、正副議長も加り其の交渉に乗り出した。

斯て各委員は、縣の島川總務、中川經濟兩部長と會見し這般の市會協議會の經過を報告し、千代田村よりの希望をも聽取する處あり更に縣營溜池工事の爲に減損する公租額、同村に及ぼす財政状態、其他に關する調査を重ねる事三ヶ月に及び、其間十數回に亘り委員會を開き審議した結果、同十一年三月十六日中川經濟部長の招きにより、齋木市長、秋山、雪江正副議長、丸茂委員長の四氏は部長と懇談の上、本市は金一萬五千圓を超えない程度ならば寄附金の名目を以て千代田村へ交付しても宜敷い旨を表明し、縣に一任したので、茲に急角度に其の接近を見、更に條件的の事項ではあつたが、委員會は御嶽東線の改修、新送水鐵管の使用、溜池水面使用等の希望を要求した所、之は順調に進行して來た本問題を、再び紛糾の巷に導くが如き事を虞れ、縣の要望もあり無條件を以て一任する所となつた。越えて四月二十二日の委員會は左の協約書に示せる方法を以て縣の居中調停を全會一致承認して、同二十四日の市會協議會に報告した。協議會は又其の報告通り決定したので、同三十日の市會に於て、寄附金一萬五千圓の追加豫算と共に、左の如き協約書の議決を爲し、直ちに中川經濟部長立會の下に調印を了し昭和八年十一月より紛議を重ねた公課代償の件は茲に圓滿に解決した次第である。

第三七五號

昭和五年三月三日

西山梨郡千代田村長 神宮司 新太郎

第四章 荒川沿岸用水幹線改良事業

六二五

甲府市長 成 島 治 平 殿

本村地盤内貴市水道貯水池其他關係用地ニ對シ敷設當時ヨリノ本村公課ノ代償トシテ本村ニ應分ノ御寄附ヲ願度件ニ就テハ其當時ヨリ歴代村長ニ於テ夫々御願致來リ小職亦就職以來公私ノ文書並ニ屢々參廳貴職及武井助役水道課長ニ面會縷々陳情御願致シ來リ貴職ニ於テハ全國的ニ其ノ類例ヲ取調此ノ種ノ事實アリトセハ相當ノ考慮ヲナシ公文ヲ以テ御回答被下ヘキ旨御確答ヲ給リタル次第ニ之有客年末貴市豫算御編成前小職及本村助役並ニ村會議員數名帶同參廳武井助役ニ面會御願ノ折ハ市ニ於テモ相當考慮ヲ拂ヒ居リ夫々調査モ致シアルニ付市長ト熟議シ來年度豫算ニ於テハ適當ノ措置ヲ講スヘキ旨御回答ヲ得タルニ依リ一同御誠意ヲ諒承シテ引下リタル義ニモ有之永年來ノ問題殊ニ一昨年來御調査相成タルコトナレハ全國ノ例モ部分的ニハ御調査濟ノモノモ可有之何分ノ御回答ハ一日千秋御待チ申居ル次第右ノ事情ニテ貴職ニ於テモ次年度御市豫算ニハ相當御計上被下タルコト、相信シ候モ如何ニ候哉小職カ東京市ニ於ケル村山貯水池ニ就キ取調ヘタル處ニ依レハ地元村ニ對シ一時的ニハ巨萬ノ寄附ヲ爲シ公課ノ代償トシテハ毎年多額ノ寄附ヲ爲シツ、(金額其他ノ詳細ハ御面會ノ上可申)ノアルノ實例有之候ニ付テハ貴職ニ所謂全國ニ其例アリトセハ御口上ニ基キ萬一明年度豫算ニ御計上ナキ様ノ場合ニモ候ハ、追加豫算ナリ執レノ方法ニ依ルモ此際適當ニ御考慮ヲ給ハリ永年ノ懸案ヲ御解決被下唇齒ノ間ニアル貴市ト本村トノ和衷融合ノ實ヲ舉ゲラル、様御配慮被下度此段申進候也

水收第三五號

昭和五年七月五日

甲府市長 成 島 治 平

西山梨郡千代田村長 神宮司 新太郎 殿

水道用地ニ係ル一時交付金ノ件通牒

貴村地内本市水道關係潰地ノ免稅等ニ對スル代償ノ件ニ關シ兼テ御申出相成候ニ付市會ノ決議ヲ經一時限金壹千圓ヲ御交付致ス

コトニ相成候間右ニ御承知相成度

追テ現金ハ御序ノ節御來廳御受領相成度尤收入役ヘ御交付可致尙本件ニ關シテハ貴職ヨリ種々事情申述ノ次第モ有之候爲メ今同ニ限り交付スル義ニシテ將來ノ例ト看做サレサル様特ニ御了知置相成度爲念申添候

西山梨郡千代田村地内水道用地潰地調(昭和四年十二月調)

宅地々價金貳拾七圓八拾錢

地租金六拾九錢

田、畑地價金貳千五拾四圓九拾五錢

同 金九拾貳圓四拾七錢

其他地價金六圓五拾錢

同 金參拾五錢

計金貳千八拾九圓貳拾五錢

計 金九拾參圓五拾壹錢

縣稅地租附加稅(昭和四年度)

宅地分 金參拾九錢

地租壹圓ニ付金五拾七錢貳厘

其他 金壹百貳拾九圓七拾六錢

金壹圓參拾九錢八厘

計金壹百參拾圓拾五錢

千代田村ノ收入減少トナリタル分

一、國庫交付金 地租徵收額百分ノ三

金貳圓八拾錢

二、縣稅交付金 同附加稅額千分ノ七

金九拾壹錢

計金參圓七拾壹錢

一、村稅地租附加稅 (制限迄トシテ計算ス)

宅地 百分ノ二十八

金拾九錢

其他 百分ノ六十六

金六拾壹圓貳拾六錢

第四章 荒川沿岸用水幹線改良事業

計金六拾壹圓四拾五錢
合計金六拾五圓拾六錢

謹啓 愈々御健勝奉賀上候 陳者一昨日參廳の折は失禮謝上候きて其の件に就きては水道課長殿に村の困難狀況及小生の意中は御話申上置候要するに本件の如きは今更申上ぐる迄もなく當方の要求と云ふより一に貴市の御同情に待つ外無之次第昨日歸村の途次新海議長宅に一寸立寄り貴殿より御協議ありたる場合には是非御同情を待致旨御願致し置候歸村幸ひ村會も招集し置きたるに付其の席上貴職に於て適當に御配慮被下居る旨の報告は致し候本村の財政狀態は昨年小學校増築に依り多額の起債を爲し只今の如き不景氣にては起債に對する本年三月末日償還の元利合計千四百餘圓も未だ支拂ふこと能はず尙殘酷なるは昨年五月退職したる三十年以上勤続書記の退職給與金僅か六百圓内外のものも今以て支拂ふこと能はず何れ本年度の制限外課税にてもして處理せざるべからざる次第の有様に付市會へ御協議に付す場合は是非弊村の御味方となりて相當御補助被下様御配慮を賜はり度尙又勝手ながら右之如き財政狀態なれば是非此の際一日も早く御支給被下様特に御配慮被下度書中を以て奉懇願候

四月七日

早々敬具

成島市長殿

猿橋にて 神宮司 新太郎

昭和五年十月十二日

西山梨郡千代田村長 神宮司 新太郎

甲府市長 成島治平殿
甲府市會議長 今井茂右衛門殿
甲府市會議員 一同 殿

貴市ト最モ密接ノ關係アル貴市水道水源地タル本村ハ水道ニ對シ如何ナル關係ニアルカ又之ニ對シ貴市ガ本村ニ如何ニ望觀シ居ラル哉ノ點ニ關シ卑見ヲ述ベ併而今回御計畫ノ扇谿貯水池水道擴張ニ對シ乍遺憾反對ノ已ムヲ得サル所以ヲ述ヘテ諸賢ノ御明鑑ヲ仰キ度本村會ノ意見並村内ノ輿論ヲ聽キ左ニ開陳仕候

- 一、水源涵養ノ爲保安林ニ編入ノ爲本村此ノ入會權ヲ喪失セリ(概要)
- 二、本村内耕地ハ水道用地ノ形成デ耕地旱害少カラズ(同)
- 三、水道取入口附近ニ本村隔離病舎アリ移轉スルニ費用ナク發生時期ニハ多大ノ失費ヲ要セリ(同)
- 四、第二項ノ公課損失及道路水路敷等ノ潰地ニ對スル代償ニ付テハ歴代村長ヨリ同情ヲ求メ來リ東京市ガ村山貯水池ノ道路水路敷地代ヲ村ニ拂ヒ教育費ノ内へ一時寄附三萬二千圓公課ノ代償トシテ毎年ノ寄附六百圓消防組へ毎年六十圓ノ寄附ヲ爲シ如何ニ市ガ村ニ愛情濃厚ナルカノ實例ニ徵シ本村ニ於イテモ相當ノ寄附ヲ受ケ度前市會議長、議員諸賢ニ陳情當局ニ對シテハ村ノ實狀等ヲ披瀝シ一再ニ止マラズ出頭或ハ書面ノ陳情ヲ爲シ漸ク過般金千圓ノ寄附ヲ受ケ之ヲ受領シタリ其ノ好意謝スルトコロナルモ村山貯水池潰地地價ニ對シ金千圓ハ何シノ基準ニ據ラレタルモノナルヤ甚ダ判斷ニ苦シム處ニ有之本村小ナリト雖モ徒ラニ貴市ニ對シ寄附ヲ強要スルモノニアラズ何レノ基準ニ因リ比較對照強者ト雖弱者ヲ押フルコトナク最モ公平ニシテ下流沿岸村旱害地ニ補償セラレタリト云フ實例等ニ徵シ適當ノ措置ヲ受クルハ水源地タル本村民ノ一致望ム處ナレバ村公課代償トシテハ毎年相當額ノ交付ヲ受ケタシ
- 五、水道涵養保安林編入ニ伴フ入會權喪失ノ保償其ノ方法ヲ講セラレタシ(概要)
- 六、扇谿貯水池ハ將來危險デアリ旱害ヲ招ク又本村ニ交渉ガナク考慮サレタイ(同)

以上數項ノ事情今回ノ實地御視察ノ狀況トニ照シ特ニ御賢察ノ上相當ニ善處ノ途ヲ講セラレ度又現在ノ淨水池等萬一擴張ノ場合ハ上地買収ニ先チ公課ノ代償等豫メ村ニ御交渉ノ上施行セラレ將來永遠ニ貴市ト水源地貯水池ノ地元村タル兩者間ノ密接親善ヲ期スル様致度本村ハ敢テ大衆的運動等ニ妄動スルモノニ無之御來村ヲ機トシ右實情開陳仕リ候也

協約書

縣營荒川沿岸用水幹線改良事業並甲府市上水道事業施行ニ關シ甲府市及西山梨郡千代田村トノ間ニ於テ左記ノ通協約スルモノトス

記

- 一、縣營荒川沿岸用水幹線改良事業並甲府市上水道事業ノ施行ニ付テハ甲府市及千代田村ハ相互扶助ノ精神ヲ以テ事業ノ圓滿ナル遂行ヲ圖リ以テ兩者ノ共存共榮ヲ期スルコト
 - 一、甲府市ノ既設上水道事業經營自昭和八年度至昭和十二年度縣營荒川沿岸用水改良事業及自昭和八年度至昭和十年度甲府市上水道擴張事業ニ關スル千代田村地内ニ於ケル施設及經營ノ爲其ノ村ニ於テ失フヘキ公租公課其ノ他一切ノ損害ノ補償トシテ金壹萬五千圓也ヲ昭和十一年度ニ於テ甲府市ヨリ千代田村ニ寄附スルモノトス
 - 一、前號ノ施設及經營ニ關シ千代田村ハ甲府市ニ對シ將來重大ナル損害ノ新ニ發生セサル限リ何等ノ要求ヲ爲ササルモノトス
 - 一、本協約書ハ三通ヲ作製シ甲府市、千代田村及山梨縣廳ニ於テ各一通ヲ領置スルモノトス
- 昭和十一年四月三十日

甲 府 市 長 齋 木 逸 造
 西山梨郡千代田村長 神 宮 司 新 太 郎

第五節 住吉村小排水改良事業

本工事は西山梨郡山城住吉兩村に於ける耕地灌漑用水の改良補給を圖るべく、荒川沿岸用水幹線改良事業の附屬工事にして、本市上水道の流末にあたる住吉村地内濁川沿岸に、揚水設備を始め其他を合せて金五萬圓の工費を以て、縣の設計監督の下に、兩村に於て施行するものであるが、溜池設置と同様農林省より工費の二分の一の補助金が交付

され、残る金二萬五千圓を本市より寄附して、其の財源に充當したのである。

尙工事は昭和八年度より二ヶ年の繼續事業にして、同八年十一月十七日縣に於て、調査設計の上令達されたので、同十二月二十二日認可を経て、同二十五日東京羽田コンクリート株式會社に請負はしめた上、翌九年一月二十一日より着工し、同村字増坪信玄堤濁川左岸に取入口及鎮水壕の設置、七十五馬力の電動機及二十吋渦卷揚水唧筒の据付け同上家建築、導水敷設、放水路及分水路の築設等の各工事は同六月二十三日竣工したので、縣の竣工検査等ありて同二十九日より試運轉を開始した、偶々灌漑期にあつたので直ちに之を利用し頗る好成績の裡に同七月十四日まで繼續運轉したが之が爲同地方は例年より一週間以上の早期植付を了へ百四十町歩に及ぶ耕地灌漑用水は完く改良されたのである

工費は左の如くで同村は之の計畫を機會に中途に於て設計を變更して村費を追加して設備の擴張を圖つた爲當初豫算より増加して居る

一、助 成 金	二六、六八八圓
一、寄 附 金	三〇、一〇〇
一、村 費	一〇二
計	五六、八九〇
昭和八年度	二四、七三八圓
〃 九年度	三三、三二九
一、本市寄附金	二五、〇〇〇

荒川沿岸下流住吉村山城村小用排水改良事業計畫概要

荒川沿岸下流部耕地ニ於テ旱魃ノ被害大ナルハ西山梨郡住吉村ノ一部及山城村ノ一部ニシテ其ノ被害面積百町步アリ此ノ被害ヲ除去スル目的ヲ以テ新ニ揚水機ヲ濁川沿岸信玄堤ニ設置シ濁川ヨリ揚水シ旱魃地ノ灌溉ニ支障ナカラシメムトス
計畫ノ大要次ノ如シ

一、用 水 源 濁 川

二、揚水機設置箇所 濁川左岸西山梨郡住吉村大字増坪信玄堤上

三、揚水量

下流部耕地ノ單位用水量ハ每秒〇、一二五町秒立方尺ニシテ此ノ約三割五分ハ用水不足スルヲ以テ旱魃地全ク不足水量ハ每秒

四、三七五立方尺トナル之レニ水路内損失二割ヲ見込ミ每秒五、二五立方尺ヲ揚水スレバ可ナルモ「ポンプ」ヲ十二時間運轉

トナシ每秒揚水量ヲ一〇、五〇立方尺ト決定ス

四、「ポンプ」ノ構造

口徑 十六吋渦卷ポンプ

運轉 直結運轉

馬力 七十五馬力三相交流電動機

五、揚 程

實揚程 十五尺

全揚程 二十尺

六、導水管

「ポンプ」放出口ヨリ住吉村大字本村部落ノ南端ニ至ル延長千八十間ヲ内徑二十吋ノ「ヒューム」管(毎吋口五十ポンド壓力管)
ニ依リ導水シ上小河原堰ニ放流セムトス

七、導水堰

上小河原堰ニ放流セル水ノ一部ヲ新ニ導水路六百間ヲ設ケ住吉村大字中小河原部落ノ北端ニ於テ中小河原堰ニ連絡シ用水ノ調節ヲ圖ラムトス而シテ水路ハ凡テ練石積トス

事業豫算書

一金五萬三千圓也

内 譯

一、揚水機及設備費

五〇、〇〇〇圓

一、事 務 費

三、〇〇〇

計

五三、〇〇〇

甲府市上水道史年次一覽表

明治 五、一〇、
 同 七、五、一四
 同 七、五、一八
 同 七、五、二〇
 同 八、二、一九
 同 八、三、一〇
 同 八、三、一二
 同 八、四、二
 同 八、九、二六
 同 八、九、二八
 同 八、一〇、二二
 同 一、二、一六
 同 一、二、二〇
 同 一、四、一
 同 一、七、二一
 同 一、三、六、二〇

山田町若尾逸平氏外有志荒川流水取入水路用鑿ノ件願出デ用水路ヲ開設ス。
 新水路開鑿世話擔當人選任ス。
 開鑿見込書及經費支出方法ヲ縣ニ提出ス。
 新水路敷地調査及用地收用ノ爲縣中屬相川信義氏關係村ニ交渉ス。
 新水路工費出金、償却、修繕方法目論見書ヲ縣へ提出ス。
 新水路敷地關係村ヨリ提供並開鑿書ヲ縣へ提出ス。
 新水路開鑿方ヲ縣ニ願出ヅ。
 開鑿ノ件閉届トナル。
 開鑿工事ニ着手ス。
 新水路竣工通水ス。
 新水路ノ取締達示發セラル。
 水路取締看守許可ヲ經テ設置ス。
 荒川分水ニ關シ池田村ヨリ伺書縣ニ提出ス。
 再伺書ヲ提出ス。
 用水路ノ管理經營ノ爲用水町聯合會ヲ設置ス。
 新水路取締制止札ヲ建ツ。
 明治大帝行幸ノ砌稻門村武田與十郎氏所有井水ヲ供進シ、之ヨリ御膳水ノ名起ル。

同 一四、七、二九
 同 一四、八、一一
 同 一八、七、二一
 同 二二、一〇、一七
 同 二二、一〇、一九
 同 二三、一二、二二
 同 二五、一二、二五
 同 二六、一、一一
 同 二六、一、一六
 同 二六、三、二一
 同 二六、五、二二
 同 二六、七、二八
 同 二六、七、二九
 同 二六、九、二二
 同 二六、一、一
 同 二九、九、二六
 同 二九、一〇、一
 同 三〇、四、一
 同 三三、六、九

市中町用水聯合會規約ヲ制定縣へ認可方申請ス。
 同聯合會規約認可トナル。
 市中用水路ハ西山梨郡長ノ管理ニ移ル。
 市中用水路本市移管ノ件市參事會決定ス。
 用水路移管ノ件市會否決ス。
 本市移管案再ビ市會否決トナル。
 水道調査費金五百圓市會決議ス。
 市中用水區會設置方市參事會ノ決議ヲ經テ内務大臣ニ申請ス。
 區會設置及條例制定ノ件市會へ諮問トナル。
 區會設置ノ件市會答申ス。
 用水區會條例内務大臣ヨリ認可トナル。
 用水區會議員選舉ヲ行フ。
 内務省衛生工師「ダブルユー、ケー、バルトン」氏入甲ス。
 用水路管理規則及用水路使用科賦課方法認可方申請ス。
 同上認可トナル。
 市中用水路使用料規程制定ス。
 用水路管理規則實施ス。
 用水區戸別割賦課法告示ス。
 水道調査費金五百圓ヲ計上ス。

甲府市上水道史年次一覽表

明治三三、七、三
 同 三三、八、九
 同 三三、八、七
 同 三三、八、九
 同 三三、一一、一二
 同 三三、一一、一二
 同 三三、一一、一二
 同 三三、一一、一五
 同 三三、一一、二八
 同 三三、一二、二〇
 同 三三、一二、二五
 同 三三、一二、二三
 同 三三、一二、二四
 同 三四、一、二四
 同 三四、四、八
 同 三四、六、三〇
 同 三五、八、一五
 同 三六、一一、一
 同 三六、八、五
 同 三六、四、一

水道調査委員會設置規程ヲ決定ス。
 水道敷設調査ノ爲荒川水量實測方縣ニ申請ス。
 第一回水道調査委員會開會ス。
 縣土木技師野口嘉茂氏荒川水量ヲ調査ス。
 水道調査主査第一、二兩部ヲ置キ執務方法ヲ定ム。
 水道敷設調査專任技師聘用ノ件決定ス。
 水源取入口位置ヲ決定ス。
 市長、水道調査委員、内務省ニ出頭水道敷設ニ付キ指示ヲ仰グ。
 水道調査費金五百圓ヲ追加決定ス。
 水道敷設計主任技師ニ稻垣實氏ヲ任命ス。
 土地立入方認可方ヲ申請ス。
 水道調査費金千五百圓ヲ追加計上ス。
 配水池豫定地トシテ舊甲府城址拂下ゲ方陸軍省ニ申請ス。
 地質及水質調査ヲ行フ。
 敷設計書及工費成案ス。
 飲用水販賣營業取締規則公布サル。
 敷設調査ノ爲縣木村技師ヲ囑託ス。
 水道調査委員設置規程ヲ改正ス。
 甲府用水路ハ飲用水路取締規則ニ基キ指定トナル。

同 三六、八、一
 同 三六、九、一〇
 同 三八、八、一〇
 同 四〇、九、一六
 同 四〇、九、二一
 同 四〇、九、三〇
 同 四〇、一〇、一五
 同 四〇、一、二二
 同 四一、二、二八
 同 四一、三、二〇
 同 四一、四、二七
 同 四一、五、二七
 同 四一、七、二一
 同 四一、八、三一
 同 四一、九、一〇
 同 四一、九、二一
 同 四一、九、二八
 同 四一、一〇、二二

甲府市上水道史年次一覽表

宮本村黒平地内御料林ヲ保安林編入方申請ス。
 荒川沿岸村大山縣知事ニ水道敷設反對ヲ陳情ス。
 市内水脈及ビ水質調査ヲ神保小虎博士ニ依頼ス。
 地下水利用試験ノ件市會決定ス。
 穴切校構内ノ鑿井工事ニ着手ス。
 水道調査費金一萬圓起債ノ件ヲ決定ス。
 新紺屋校内鑿井工事ニ着手ス。
 穴切校構内鑿井工事中止ス。
 水道條例ニ基ク水道敷設計畫實施ノ件水道調査委員會決定ス。
 臨時水道課ヲ設置シ稻垣實氏ヲ主任技師ニ任用ス。
 土地立入方申請シ許可トナル。
 稻垣技師臨時水道課長ニ任命ス。
 水道敷設計畫書ヲ市會ニ提出ス。
 水道敷設計畫書市會可決ス。
 荒川沿岸村代表反對意見書ヲ縣知事ニ提出ス。
 水道敷設ニ伴フ國庫及縣費補助金交付方内申ス。
 福岡村外四ヶ村代表内務省ニ反對意見書提出ス。
 内務省ヨリ本市水道敷設水利權ニ關シ縣ヘ照會サル。
 福岡村九ヶ村代表再ビ内務省ニ反對陳情ス。

甲府市上水道史年次一覽表

明治四二、二、四
 同 四二、三、二二
 同 四二、七、二九
 同 四二、七、三〇
 同 四二、八、二二
 同 四二、一〇、一四
 同 四二、一〇、六
 同 四二、一一、二
 同 四二、一一、一〇
 同 四二、一二、三
 同 四二、一二、八
 同 四二、一二、一
 同 四三、一、二〇
 同 四三、一、二一
 同 四三、三、九
 同 四三、三、一〇

東山梨、西山梨兩都ニ亘ル御料林ノ保安林編入方申請ス。
 國庫補助金二十一萬八千圓交付ノ件内牒トナル。
 水道敷設ノ件及計畫書豫算書市會ニ提案可決ス。
 水道敷設施行認可方縣ヲ經テ主務省ニ申請ス。
 荒川沿岸村ノ故障ニ對シ縣ヘ裁定方上申ス。
 水道敷設工事施行ノ件認可トナル。
 沿岸村ノ反對ヲ縣裁定ス。
 縣費補助金十萬圓交付指令サル。
 水道敷設起工式ヲ舉行ス。
 縣ノ裁斷書ニ請書提出ヲ市會決定ス。
 起債ノ件許可トナル。
 水道部ヲ設置シ事務所ヲ舊相生校ニ置キ事務ヲ開始ス。
 水道部處務細則ヲ定ム。
 縣村道及甲府聯隊附屬地鐵管敷設認可方申請ス。
 甲府驛構内専用側線敷設及材料置場借入方申請ス。
 土地收用法ニ依ル事業認定方申請ス。
 水道専用電話施設認可方逕信省ニ申請ス。
 公債發行、償還方法許可方内務、大藏兩省ニ申請ス。
 職員俸給規程水道工事執行規程ヲ公布ス。

同 四三、三、三〇
 同 四三、四、一
 同 四三、四、五
 同 四三、五、七
 同 四三、六、一
 同 四三、六、二
 同 四三、六、一七
 同 四四、五、一五
 同 四四、五、二〇
 同 四四、八、一
 同 四四、九、二二
 同 四五、一、二五
 同 四五、二、一九
 同 四五、二、一七
 同 四五、二、一九
 同 四五、四、一九
 同 四五、七、二五
 同 四五、七、二九
 大正 元、九、一二

公債發行ノ件認可トナル。
 公債金七十八萬八千圓東京米穀商品取引所ノ引受ニ依リ發行ス。
 鐵道専用側敷設及材料置場借入ノ件許可トナル。
 鐵管鑄造方東京砲兵工廠ヘ委囑ス。
 鐵管鑄造ノ件承認サレ契約ヲ締結ス。
 水道専用電話架設ノ件許可トナル。
 水源工事及淨水場工事設計變更ノ件市會議決ス。
 設計變更認可方主務省ニ申請ス。
 甲府聯隊附屬地ヘ鐵管敷設ノ件許可トナル。
 導水管工事設計變更ノ件認可トナル。
 淨水場内工事設計變更ノ件市會議決ヲ經認可方申請ス。
 同上認可トナル。
 水道部給與規程改正ス。
 竣工期間延期ノ件市會議決ス。
 竣工延期認可方申請ス。
 豫算及年度制變更ヲ議決ス。
 學校、工場（縣師範學校草雉社）ヘ給水ノ件議決ス。
 給水條例認可方申請ス。
 同認可トナル。

甲府市上水道史年次一覽表

甲府市上水道史年次一覽表

大正 元、九、二〇
 同 元、一〇、五
 同 元、一一、七
 同 元、一一、八
 同 元、一一、一〇
 同 元、一一、二〇
 同 元、一二、七
 同 元、一二、一一
 同 元、一二、二一
 同 二、一、二一
 同 二、一、二四
 同 二、三、一八
 同 二、三、二六
 同 二、三、二六
 同 二、四、一九
 同 二、四、一九
 同 二、四、二〇
 同 二、六、二五
 同 二、六、二八

通水試験ヲ行フ。
 給水條例細則ヲ公示ス。
 竣工工程ヲ内務省ニ報告ス。
 竣工期限ノ件認可サル。
 愛宕山配水場ニ於テ竣工式ヲ舉行ス。
 水道經營豫算ヲ創設可決ス。
 水道課設置規定ヲ制定ス。
 水道課設置シ課内ニ三係ヲ置ク。
 水道巡視勤務細則ヲ定ム。
 給水開始ノ件認可トナル。
 水質試験方縣ニ囑託ス。
 竣工延期ノ件認可方申請ス。
 第一回水道公債償還ス。
 縣裁斷ニ依ル設置及維持費支出ニ關シ内申ス。
 水質試験施行囑託ノ件承認トナル。
 臨時水道委員設置規程廢止ス。
 水道課設置規程改正ス。
 水道敷設ニ依リ用水區會解散ト水路公用廢止ヲ決定ス。
 水路通水ヲ七月一日ヨリ廢止ス。

同 二、七、一五
 同 二、一〇、二八
 同 二、一一、一
 同 二、一二、二二
 同 三、二、二
 同 三、二、二
 同 三、二、一〇
 同 三、二、二七
 同 三、三、三
 同 三、四、二
 同 三、五、四
 同 三、六、二九
 同 三、七、一
 同 三、七、一三
 同 三、八、一三
 同 三、一一、一
 同 三、一一、一八
 同 三、一一、二六
 同 三、一二、二七

用水路専用汲取場撤去ス。
 工事竣工延期認可サル。
 飯田町朝氣町へ給水擴張意見書市會議決ス。
 千塚大宮兩村ヨリ貯水池設置方縣へ陳情ス。
 貯水池設置問題懇談會開催ス。
 縣ノ再裁斷書交付サル。
 飯田相川兩町ニ給水ノ件縣へ認可方申請ス。
 同上認可トナル。
 朝氣町給水ノ件認可方縣へ申請ス。
 同上認可トナル。
 水道給水條例改正ヲ議決シ許可方申請ス。
 住吉村ハ縣裁斷不服ノ爲縣知事ヲ相手ニ行政訴訟ヲ提起ス。
 竣工報告書ヲ主務省ニ申請ス。
 住吉村ノ出訴セル行政訴訟却下トナル。
 改正給水條例許可トナル。
 水道部殘務整理ヲ水道課へ引繼グ。
 住吉村本市ヲ相手取り民事訴訟ヲ提出ス。
 同上ニ關シ市會協議ス。
 同上第一回口頭辯論開廷サル。

甲府市上水道史年次一覽表

甲府市上水道史年次一覽表

大正	四、一、二八	水道委員會設置意見書提出ス。
同	四、二、二三	水道委員會議設置意見書提出ス。
同	四、三、四	住吉村トノ訴訟示談諭告サル。
同	四、三、五	住吉村トノ示談ノ爲懇談會開催ス。
同	四、四、五、一二	會計検査院ヨリ水道敷設決算認可。
同	四、五、一二	敷設費餘剰金特別計理トス。
同	四、六、一	水道巡視増員ス。
同	四、七、八	住吉村トノ係争和解トナル。
同	四、九、一	御即位大典記念植林事業案決定ス。
同	四、九、二〇	水道専用電話繼續使用認可トナル。
同	五、二、一	水道給水條例改正許可方申請ス。
同	五、五、一	水道普及ノ爲井水水質試験ヲ行フ。
同	六、二、一六	御大典植林事業植樹地ヲ擴張ス。
同	六、二、二六	水道用地護岸工事執行ノ件決定ス。
同	七、三、一六	水道課設置規程廢止ス。
同	八、二、二二	給水條例改正許可方申請ス。
同	九、三、二六	同上認可トナル。
同	九、七、二	給水量激増節水宣傳ヲ行フ。
同	一〇、四、二	給水條例改正許可方申請ス。
同	一〇、五、二〇	水道擴張調査ノ爲植村倉藏氏技師ニ任命着手ス。

同	一〇、六、六	給水條例改正許可トナル。
同	一〇、七、六	夜間斷水ヲ行フ。
同	一〇、七、一	市役所調査部分掌分課規程ヲ制定ス。
同	一〇、七、一〇	節水宣傳標語ヲ募集ス。
同	一一、四、一〇	工學博士中島銳治氏ヲ水道擴張調査顧問ニ囑託ス。
同	一一、九、九	水道擴張計畫ノ市會協議會開催ス。
同	一一、一二、二五	水源涵養林問題協議會ヲ開催ス。
同	一二、二、八	東洋遊園地株式會社ノ水源涵養林問題ニ關シ意見書提出ス。
同	一二、四、四	臨時水道水源調査委員會設置規程ヲ制定ス。
同	一二、四、四	水道擴張調査部廢止ス。
同	一二、九、一	大震災ノ爲給水停止トナル。
同	一二、九、四	震災對策協議會ヲ開催ス。
同	一二、九、五	應急修理ノ爲一部通水トナル。
同	一二、九、一六	夜間斷水ノ件告示ス。
同	一二、一〇、二一	震災復舊ノ爲國庫補助金交付方申請ス。
同	一三、一、二一	震災復舊費市會議決ス。
同	一三、四、二二	給水條例改正許可方申請ス。
同	一三、八、二五	同上認可サル。
同	一三、九、三〇	災害復舊起債許可方申請ス。

甲府市上水道史年次一覽表

大正	一三、一一、二一
同上許可トナル。	
災害復舊國庫補助金交付指令サレ。	
市長以下水源池調査ノ爲北巨摩郡増富村木賊沼へ出張ス。	同 一三、一二、五
水源補給池設置認可方縣へ申請ス。	同 一四、一〇、二〇
市長市會議員一行水源調査ノ爲福岡、松島兩村へ出張ス。	同 一四、一〇、二七
市會議員水道視察ノ爲關西へ出張ス。	同 一四、一〇、二九
水源決定ノ爲臨時水道擴張委員會ヲ開催ス。	同 一五、四、一一
水道給水條例改正ヲ市會へ提案ス。	昭和一五、六、一二
同上主務省へ認可方申請ス。	昭和二、一、二六
水道委員設置規程制定意見書提出ス。	同 二、四、二四
震災復舊工事竣工ス。	同 二、五、二七
臨時水道擴張部ヲ設置シ分掌規程ヲ制定ス。	同 二、五、三〇
水道擴張委員會設置規程制定シ委員決定ス。	同 二、七、八
水道給水條例改正許可トナル。	同 二、七、一九
市長水源探査ノ爲荒川上流ヲ跋涉ス。	同 二、七、二二
相川村御納小路へ臨時給水ス。	同 二、一、三
市長再ビ水源決定ノ爲宮本村ニ出張ス。	同 三、二、五
水道擴張上申書縣へ提出ス。	同 三、三、二四
市長知事ヲ訪ヒ擴張計畫調査應援方懇請ス。	同 三、五、三
	同 三、五、二一

大正一三、一一、二一
 同上許可トナル。
 災害復舊國庫補助金交付指令サレ。
 市長以下水源池調査ノ爲北巨摩郡増富村木賊沼へ出張ス。
 水源補給池設置認可方縣へ申請ス。
 市長市會議員一行水源調査ノ爲福岡、松島兩村へ出張ス。
 市會議員水道視察ノ爲關西へ出張ス。
 水源決定ノ爲臨時水道擴張委員會ヲ開催ス。
 水道給水條例改正ヲ市會へ提案ス。
 同上主務省へ認可方申請ス。
 水道委員設置規程制定意見書提出ス。
 震災復舊工事竣工ス。
 臨時水道擴張部ヲ設置シ分掌規程ヲ制定ス。
 水道擴張委員會設置規程制定シ委員決定ス。
 水道給水條例改正許可トナル。
 市長水源探査ノ爲荒川上流ヲ跋涉ス。
 相川村御納小路へ臨時給水ス。
 市長再ビ水源決定ノ爲宮本村ニ出張ス。
 水道擴張上申書縣へ提出ス。
 市長知事ヲ訪ヒ擴張計畫調査應援方懇請ス。

同	三、七、二七
同	三、九、四
同	三、九、六
同	三、九、九
同	三、九、九
同	三、九、一二
同	三、九、一九
同	三、一〇、四
同	三、一〇、六
同	三、一〇、一六
同	四、一、八
同	四、一、一四
同	四、一、二五
同	四、三、四
同	四、三、二五
同	四、三、三一
同	四、四、六
同	四、四、八

擴張水源池決定ス。
 住吉村外二ヶ村長ヨリ水道擴張調査ニ關シ陳情ス。
 擴張基本計畫概計決定ス。
 市長擴張成功ヲ祈願スベク淺間、武田兩神社ニ參詣ス。
 水道擴張計畫概計水道擴張委員會ニ諮問ス。
 同上市會協議會ニ報告協議ス。
 京都帝大教授大井清一博士ノ實地視察ヲ懇請シ五、六兩日詳査ス。
 市會協議會へ大井博士ノ視察意見ヲ報告ス。
 大井清一博士ヲ水道擴張調査顧問ニ推薦ス。
 水道基金蓄積條例ヲ設定ス。
 千代田村ヨリ隔離病舎移轉料寄附方陳情ス。
 中島洋吉氏ヲ擴張計畫設計主任技師ニ任命ス。
 臨時水道擴張部分課分掌規程ヲ改正ス。
 水源池ヲ扇谿ト命名ス。
 中巨摩郡宮本村上里平及西山梨郡千代田村平瀬地内荒川流量調査ノ爲設備施行方申請ス。
 荒川沿岸村民水利權擁護聯盟ヲ組織シ意見書ヲ提出ス。
 荒川流量調査設備施行ノ件許可トナル。
 貢川村長ヨリ水道擴張反對意見書ヲ提出ス。
 水道擴張計畫基本案臨時水道擴張委員會ニ諮問ス。

昭和 四、四、二二
 同 四、五、一
 同 四、六、一七
 同 四、七、一六
 同 四、七、一八
 同 四、七、二六
 同 四、七、二七
 同 四、八、一一
 同 四、八、一六
 同 四、九、一二
 同 四、一、二九
 同 五、三、三
 同 五、四、二
 同 五、四、八
 同 五、四、二五
 同 五、五、二
 同 五、五、一一
 同 五、五、二二
 同 五、五、二七

甲府米穀市場代表水道擴張反對陳情ス。
 荒川流量調査ヲ始ム。
 扇谿貯水池基本計畫ヲ臨時水道擴張委員會ニ諮ル。
 飯田町舊鐵道井水利用承認方名古屋鐵道局ニ申請ス。
 扇谿地質ヲ東京帝大教授平林武博士ニ委囑調査ス。
 鐵道舊井水利用ノ件承認着工ス。
 一時送水補給施設計畫ヲ市會協議會ニ提案ス。
 鐵道舊井水給水開始ス。
 臨時水道擴張委員會規程ヲ改正ス。
 一時送水補給施設ニ關シ市會協議會ヲ開ク。
 水道公債金七十八萬八千圓完済ス。
 千代田村ヨリ公課代償方陳情ス。
 一時送水補給計畫案市會協議會可決ス。
 一時送水補給施設方縣へ申請ス。
 水道擴張計畫市會可決ス。
 同財政計畫可決ス。
 淺間、武田兩神社へ市長以下參詣ス。
 千代田村ヨリ陳情セル公課代償ニ關シテ市會協議會ニ諮ル。
 水道擴張計畫施行認可及起債許可方主務省ニ稟請ス。

同 五、五、一五
 同 五、五、一六
 同 五、五、二〇
 同 五、八、一八
 同 五、九、一
 同 五、九、二
 同 五、九、一六
 同 五、一二、一一
 同 五、一二、二一
 同 五、一二、二三
 同 五、一二、二七
 同 六、二、一二
 同 六、二、一八
 同 六、二、二一
 同 六、二、二四
 同 六、三、一九
 同 六、五、五
 同 六、五、二九
 同 六、六、二七
 同 六、七、一

荒川沿岸敷島村外三ヶ村長水道擴張反對意見書ヲ提出ス。
 同水車業ヨリ反對陳情ス。
 金千圓千代田村へ交付ヲ決定ス。
 一時送水補給施設ニ關シ警察部長ヨリ照會サル。
 混凝土用砂強度試験ヲ執行ス。
 千代田村長水道擴張反對意見書提出ス。
 一時送水補給施設縣照會ニ對シ市會協議會ヲ開催ス。
 同施設ノ件認可トナル。
 市民負擔軽減意見書市會ヨリ提出ス。
 擴張工事施行認可方稟請書縣ヨリ主務省ニ申達サル。
 敷島村長以下有志水道擴張問題ニ關シ來廳ス。
 縣知事水道擴張計畫ニ對シ沿岸村へ照會ス。
 敷島村外三ヶ村長反對意見書ヲ提出ス。
 水道擴張反對ニ關スル意見書内務省へ提出サル。
 一部市會議員内務省及農林省ニ水道擴張ニ關シテ陳情ス。
 内務省河口技師水道擴張計畫實地調査ノ爲入甲ス。
 水道調査費追加計上ス。
 一時送水補給工事竣工ス。
 同補給送水開始ス。

昭和	六、八、二四
同	六、九、一六
同	六、一、三〇
同	六、一、一八
同	七、二、二
同	七、四、二一
同	七、六、三〇
同	七、六、二五
同	七、一、一
同	七、一、一
同	七、一、一四
同	七、一、二五
同	七、一、二六
同	七、一、二九
同	七、一、二
同	七、一、二
同	七、一、二六
同	八、一、五
同	八、二、一七
同	八、三、二八

水道擴張比較水源調査ノ爲農林省杉浦技師入甲ス。
 鐵管内部水滓研究資料ヲ上水道協議會ニ報告ス。
 臨時水道擴張部職員減員ス。
 上水道河水使用認可方申請ス(敷設及擴張)。
 河水使用ノ件認可トナル(敷設分)。
 内務省河口技師荒川沿岸用水幹線改良事業計畫調査ノ爲入甲ス。
 中島水道技師辭任ス。
 送水管計量器ヲ設置ス。
 荒川沿岸用水幹線改良事業調査ノ爲農林省河原技師入甲ス。
 水道擴張認可促進調停案内示サル。
 住吉村外一ヶ村ヨリ水道擴張水利權問題ニ關シテ陳情ス。
 住吉村一ヶ村ノ陳情ニヨリ知事市長懇談ス。
 水道擴張計畫一部變更ト荒川沿岸用水幹線改良事業ヲ以テ調停ヲ受ケ。
 縣調停案ヲ臨時水道擴張委員會ニ諮問ス。
 同上ニ關シ市會協議會ニ諮リ可決ス。
 縣調停案ニ件ヲ負擔及寄附金支出ノ件市會協議會決議ス。
 鐵管試驗所敷地ノ爲富士見町民有地ヲ借入ル。
 荒川沿岸用水幹線改良事業負擔金及寄附金年度區分ヲ市參事會決定ス。
 水道擴張計畫變更ノ件及豫算案市會協議會ニ報告説明ス同上市會議決ス。

同	八、三、三〇
同	八、四、一
同	八、四、四
同	八、四、一四
同	八、四、二〇
同	八、六、二八
同	八、八、五
同	八、八、二四
同	八、九、一
同	八、九、一五
同	八、九、一九
同	八、九、二五
同	八、九、二九
同	八、九、二九
同	八、九、三〇
同	八、一〇、三
同	八、一〇、八
同	八、一〇、九
同	八、一〇、三

水道擴張工費借入金ニ關シ大藏省ニ低利供給方申請ス。
 上水道河水使用許可方申請ス。
 水道擴張工事施行認可方主務省ニ稟請ス。
 起債許可方申請ス。
 水道擴張工事施行ノ件認可トナル。
 土地立入方認可申請ス。
 同上認可トナル。
 臨時水道擴張部分課分掌規程ヲ改正ス。
 臨時水道擴張部職員執務細則ヲ定ム。
 起債ノ件許可トナル。
 西大條覺氏ヲ顧問ニ囑託ス。
 鐵管購入ノ件臨時水道擴張委員會決定ス。
 鐵道専用側線施設承認方申請ス。
 鐵管購入ノ爲日本鑄鐵管合資會社ト契約ヲ締結ス。
 請願巡查配置方申請ス。
 起工式ヲ舉行ス。
 水道擴張費繼續年及支出方法ヲ更生決議ス。
 請願巡查配置認可トナル。
 自動車其他物件購入ノ臨時水道擴張委員會ヲ開催ス。

昭和 八、一一、二
 同 八、一一、二九
 同 八、一〇、三〇
 同 八、一二、一
 同 八、一二、一八
 同 九、一、一八
 同 九、一、一〇
 同 九、一、一八
 同 九、二、二四
 同 九、三、三一
 同 九、六、五
 同 九、六、一九
 同 九、六、二八
 同 九、七、五
 同 九、七、一七
 同 九、八、一六
 同 九、一一、一五
 同 九、一一、二九

荒川沿岸用水改良事業負擔及寄附金更正ノ件市會議決ス。
 千代田村公租代償問題ニ關シ縣ニ於テ市長打合ス。
 工事直營着手ノ臨時水道擴張委員會開催ス。
 鐵道専用側線敷設ノ件承認トナル。
 申請中ノ大藏省低利資金貸付ノ件承認トナル。
 送水鐵管施設工事ニ着手ス。
 鐵管試驗開始ス。
 混凝土混合機購入其他ニ就テ臨時水道擴張委員會ニ諮問ス。
 金二十一萬圓公債發行及發行條例ヲ市會議決ス。
 金四萬八千圓低利資金供給トナル。
 金二十一萬圓山一證券株式會社引受ノ下ニ發行ス。
 大宮村湯川外水路敷設使用工作物設置方許可申請ス。
 千塚村鹽部ト協約書取交ス。
 水道専用電話架設工事其他臨時水道擴張委員會決定ス。
 大宮村地内水路敷設使用ノ件許可トナル。
 縣道附替工事及設計變更ヲ申請シ許可トナル。
 溜池工事費一部立替方縣ヨリ照會アリ。
 溜池工事施行期間一ヶ年延長シ本市負擔金及寄附金支出年度變更ヲ市會議決ス。
 大宮村湯組ト覺書取交ス。

同 九、一一、二九
 同 九、一二、一九
 同 九、一二、二六
 同 一〇、一、二七
 同 一〇、一、二八
 同 一〇、二、二
 同 一〇、二、七
 同 一〇、三、八
 同 一〇、三、一一
 同 一〇、三、二二
 同 一〇、三、三〇
 同 一〇、四、六
 同 一〇、四、一九
 同 一〇、四、二七
 同 一〇、五、二
 同 一〇、六、二八
 同 一〇、七、一三
 同 一〇、八、一五
 同 一〇、八、二一

千代田村上野組ト覺書取交ス。
 千代田谷下水池傍村道占用承認方申請ス。
 酒折線給水ノ件決定ス。
 溜池工事費一時立替金ニ關シ縣ヨリ照會アリ。
 千代田村堰改修ノ件認可トナル。
 千代田村公課代償問題ニ關シ市會議決會開催ス。
 西山梨郡大宮村地内水路敷設使用承認方申請ス。
 同鹽部用水路外ニケ所國有地使用及工作物設置認可方申請ス、大宮村外一ヶ村組合長意見書ヲ添付ス。
 同上ニ關シ本市ヨリ疏明書提出ス。
 大宮村地内水路敷十七ヶ所使用ノ件承認トナル。
 金十三萬六千圓ノ低利資金借入ス。
 量水機購入ノ件臨時水道擴張委員會ヲ開ク。
 大宮村地内鹽部堰外ニケ所水路敷設使用ノ件認可トナル。
 千代田村地内村道占用承認方内務大臣ニ申請ス。
 同上ニ關シ千代田村ヨリ不承認トナル。
 水道専用電話購入其他ニ關シ臨時水道擴張委員會ヲ開ク。
 濾過池調整機購入其他ニ關シ臨時水道擴張委員會ヲ開ク。
 愛宕山配水場ニ於テ通水試験ヲ行フ。
 工事狀況ヲ臨時水道擴張委員會ニ報告ス。

昭和十三年一月廿四日印刷
昭和十三年一月廿八日發行

【非賣品】

編輯者兼
發行所

甲府市役所

印刷者 井上源之丞

東京市本所區厩橋一丁目

印刷所 凸版印刷株式會社

東京市本所區厩橋一丁目

甲 嶺 市 對 湖

廣東省本局...

甲 嶺 市 對 湖

廣東省本局...

甲 嶺 市 對 湖

廣東省本局...

廣東省本局...

745
31

